白石市文化財調査報告書第33集

市内遺跡発掘調査報告書4

平成21年7月

白石市教育委員会

例　言

1．本書は、白石市教育委員会が平成20年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお平成20年度の事業は国庫補助事業となり、総事業費は2,038千円である。

2．土層の色調表記については、『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。地図は白石市土地情報提供GIS及び都市計画図等を用いた。

3．検出遺構の略号は以下の通りである。

ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＤ：溝跡　　ＳＫ：土坑　　Ｐ：柱穴

4．本事業の調査実施は宮城県白石市教育委員会社会教育課遠藤智課長及び齋藤勇雄課長補佐による指揮のもと、日下和寿、櫻井和人が担当した。報告書本文執筆は日下、櫻井が担当した。資料整理は岡部とき子、平間大志、佐藤里栄、吉田佐知子があたった。資料整理作業は資料整理室（白石市郡山字寿山5-3）で実施した。

5．発掘調査の実施、報告書作成等にあたっては、宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・個人から多大なご協力をいただいた。

（敬称略）

土師器、須恵器　菅原　祥夫（宮城県考古学会員）

中近世陶磁器　佐藤　洋（仙台市教育委員会）

土人形　小井川百合子（仙台市博物館）

発掘調査　石本　弘（白石市文化財保護委員）

資料整理　鈴木　敬規、丹野　幸恵（東北学院大学・インターンシップ）

高橋建設株式会社、各事業主、鉢盛郷土考古学研究会

6．昨年逝去された前白石市文化財保護委員の高橋辰男氏に哀悼の意を表するものである。

7．市内遺跡発掘調査報告書Ⅲの訂正

第１表の訂正は、本書第１表後半に記した。24頁７行目、丹青→淡青、26頁18行目５月18日→５月23日、31頁14行目、20060308→20070205

8．本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

第１章　平成20年度における埋蔵文化財調査概要

平成20年度における市内の確認調査及び工事立会等箇所は第１表にまとめた。今年度では発掘調査（事前調査）１件、確認調査12件、工事立会17件、試掘調査１件となっている。ここ数年の傾向として、自治体の財政状況悪化により、公共工事が減少しており、それに比例する形で埋蔵文化財の協議、届け出件数が減少している。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ない、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。下水道工事では掘削範囲が狭小であることから、原則として工事立会としている。

平成20年度の確認調査及び工事立会のうち、15件では遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ばない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。また周知の埋蔵文化財包蔵地でない箇所においても任意の工事立会を実施している。これは、地形的な特徴等をふまえ、埋蔵文化財が発見される可能性のある箇所においては、工事の際、文化財調査員が立ち会ったものである。

これまでは個人住宅建設にあたり、市建設部建設課建築住宅係に窓口において埋蔵文化財の手続きを周知するように依頼していたが、制度改正により、当市では建築確認申請を受け付けないこととなった。平成20年４月からは宮城県大河原土木事務所、もしくは指定検査機関において建築確認申請を受付けることになった。当教育委員会では、大河原土木事務所及び県教育庁文化財保護課と協議を行い、建築確認時における文化財保護法の手続きについて検討した。その結果、この問題は全県的な事項であるので、文化財保護課から各土木事務所長あてに、窓口において手続きを周知徹底するように依頼することとなった。

白石城跡では工事立会が相次いだ。いずれも小規模な工事であり、若干の遺物の出土はあったものの、遺構の確認はできなかった。工事立会の合間に周辺の踏査を実施し、公園内で各種陶磁器等を表採した。谷津川遺跡では土師器細片、杉の下遺跡では９～10世紀代の土師器破片、田上遺跡では剥片１点と陶磁器１点が発見された。大網遺跡では近世陶磁器、蛭賀屋敷遺跡では円筒埴輪片が表採された。

三沢城跡では伐採計画が持ち上がり、事業主、地権者代表、文化財保護課、市教委で現地協議を行い、①土塁、空堀は現状のまま保存し、作業道建設で破壊しないこと、②重機等が土塁上を通過する際には仮設盛土あるいは倒木を敷き、遺構を保護し、作業終了後、盛土等を除去する、③土塁等の存在しない斜面に作業道を設け、遺構を避けることを確認した。その結果、作業道は二の丸北側から東側に抜けるルート、二の丸の第二空堀と第三空堀を抜けるルートに設定され、遺構が保護された。遺物は一切確認されなかった。

これまで、森林伐採時には手続き上、埋蔵文化財の確認が行われることがなかったため、市農林課林務係と協議を行い、ここ１年ほどの間に白石市内で伐採を実施した10の事業主に対し、平成21年３

月９日付け白教委社第726号で、事業計画策定にあたり、埋蔵文化財の有無を確認するように通知を行った。

遺跡地図整備では、遺跡範囲の錯誤が著しかった福岡深谷地区の訂正作業を継続した。新規登録遺跡は３件であった。

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	上高野遺跡	散布地、製鉄遺跡	縄文早～中、奈良、平安	13	中屋敷陣屋跡	陣屋	近世
2	荒井遺跡	散布地、製鉄遺跡	縄文早～晩、弥生、古代	14	月心院遺跡	散布地、寺院	古代、近世
3	三本木前遺跡	散布地	縄文前、後、晩、古代、中世	15	弥陀内遺跡	散布地	弥生～平安
4	御所内遺跡	集落	縄文早、中、後、平安	16	祢宜内遺跡	散布地	奈良、平安
5	青木遺跡	集落	縄文早、中、晩、弥生、平安	17	観音崎遺跡	集落	古墳後～平安
6	下館遺跡	散布地、城館、製鉄遺跡	縄文後、平安、中世	18	大畑遺跡	散布地、官衙	弥生～中世
7	道内原遺跡	散布地、製鉄遺跡	奈良、平安	19	本郷遺跡	散布地	古代
8	堂田廃寺跡	寺院	平安	20	梅田遺跡	集落	弥生、古墳
9	下ノ神明遺跡	散布地	縄文中、平安	21	鷹巣古墳群	前方後円墳、円墳	古墳、古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前、中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文～古代
11	菅生田遺跡	集落	縄文前～後、弥生	23	白石条里制跡推定地	水田跡	古代、中世
12	蛭賀屋敷遺跡	散布地	古墳時代	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後、古代

第１図　白石市内遺跡地図

第１表　平成20年度　埋蔵文化財調査一覧

No.	遺　跡　名	遺跡番号	対応内容	所　在　地	調　査　原　因	調　査　期　間
1	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑108番地1	個人住宅建設	平成20年５月14日～21日
2	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目24-14	個人住宅建設	平成20年５月７日
3	片倉家廟所	—	工事立会	福岡蔵本愛宕山	石柵修理	平成20年５月12日～27日
4	祢宜内遺跡	02430	確認調査	字祢宜内99番地2ほか	私道拡幅	平成20年５月12日
5	祢宜内遺跡	02430	確認調査	字祢宜内99番地7、101番地2	宅地拡張工事	平成20年５月15日
6	祢宜内遺跡	02430	発掘調査	字祢宜内99番地3、5	個人住宅建設	平成20年５月15日～６月５日
7	大畑遺跡	02262	確認調査	字不澄ヶ池71番地13	個人住宅建設	平成20年６月３日
8	鷹巣古墳群29号墳	02005	工事立会	鷹巣字堂ノ入山2-6ほか	確認調査埋め戻し	平成20年６月９日～継続中
9	大畑遺跡	02262	確認調査	字大畑二番39番地1	個人住宅建設	平成20年６月10日
10	三沢城跡	02215	工事立会	大鷹沢三沢字平場山45-7	個人住宅建設	平成20年６月16日
11	天神館跡	02149	工事立会	白川津田字寺下159-1	墓地災害復旧工事	平成20年６月25日
12	本郷遺跡	02121	工事立会	字沢目64-15	仮称小十郎プラザ建設	平成20年６月25日
13	大畑遺跡	02262	工事立会	郡山字五昇路54-3	住宅建て替え	平成20年７月８日
14	谷津川遺跡	02133	確認調査	旭町三丁目6-7	個人住宅建設	平成20年８月15日
15	田中遺跡、 田中環濠遺跡	02135 02285	工事立会	大鷹沢三沢字田中ほか	下水道管埋設	平成20年８月20日～12月３日
16	新館跡	02165	工事立会	新館町1-21ほか	斜面災害復旧	平成20年８月25日～９月17日
17	白石城跡	02197	確認調査	益岡町125番2	住宅建て替え	平成20年10月１日
18	大畑遺跡	02262	確認調査	字東大畑96-1ほか	店舗建設	平成20年11月４日～６日
19	杉の下遺跡	02433	確認調査	福岡八宮字西8	産直建設	平成20年11月12日
20	屋敷前遺跡	02256	工事立会	福岡蔵本字西町	市道拡幅工事	平成20年12月25日～平成21年１月20日
21	白石会所跡	02445	試掘調査	亘理町37-1	埋蔵文化財の有無確認	平成21年１月16日
22	三沢城跡	02215	工事立会	大鷹沢三沢字平場山17ほか	森林伐採	平成21年１月26日～２月27日
23	白石城跡	02197	工事立会	益岡町125番地2	水道管敷設	平成21年１月30日
24	白石城跡	02197	工事立会	益岡町81番地1	ロッククライミングボード撤去	平成21年１月30日～２月18日
25	田上遺跡	02043	確認調査	福岡長袋字田上20-1の一部	個人住宅建設	平成21年２月13日
26	白石城跡	02197	工事立会	益岡町2-7	グランド整備、防球ネット設置	平成21年２月24日～３月９日
27	祢宜内遺跡	02430	確認調査	字柳川原20-1	店舗兼住宅建設	平成21年３月11日
28	桜土薬師堂	—	工事立会	斎川町西浦	御堂建て替え	平成21年３月12日
29	大網遺跡	02051	確認調査	福岡八宮字坂ノ上7-3の一部	個人住宅建設	平成21年３月13日
30	大畑遺跡	02262	確認調査	字大畑一番146	駐車場建設	平成21年３月16日
31	大畑遺跡	02262	工事立会	郡山字観音崎150	個人住宅建設	平成21年３月17日～18日
6	三部山遺跡	02325	工事立会	福岡長袋字三部山30の1	個人住宅建設	平成18年６月２日
7	本館跡	02208	工事立会	白川津田字川畑164の3	個人住宅建設	平成18年６月6日、６月13日
8	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目24の15	個人住宅建設	平成18年７月4日
9	谷津川遺跡	02133	工事立会	旭町三丁目7の12	個人住宅建設	平成18年７月7日
10	青木遺跡	02306	工事立会	福岡深谷字青木上26の1	個人住宅建設	平成18年７月３日、７月20日
11	滝ノ観音裏遺跡	02250	確認調査	福岡蔵本字滝野原168-1	無線局建設	平成18年７月20日
12	観音崎遺跡	02322	工事立会	郡山字観音崎163-1	個人住宅建設	平成18年８月22日
13	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑130	個人住宅建設	平成18年８月24日
14	本館跡	02208	工事立会	白川津田字山上	市道拡幅工事	平成18年８月22日～28日
15	前山遺跡	02115	工事立会	城南二丁目1の8,1の9	個人住宅建設	平成18年８月28日
16	佐野道遺跡	02396	工事立会	大鷹沢大町字佐野道84	個人住宅建設	平成18年８月29日
17	北無双作遺跡	02009	確認調査	北無双作33の11	個人住宅建設	平成18年９月１日
18	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町五丁目3の3	個人住宅建設	平成18年９月４日
19	鶴巻田遺跡、 微妙館跡	02016 02226	工事立会	越河五賀字鶴巻、見妙	下水管埋設	平成18年８月22日、９月15日
20	御所内遺跡	02320	工事立会	福岡深谷字御所内	下水管埋設	平成18年９月19日
21	弥陀内遺跡	02263	確認調査	郡山字平成54	個人住宅建設	平成18年９月20日
22	峠沢遺跡	02022	工事立会	越河五賀字峠沢	下水管埋設	平成18年９月28日
23	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目24の16	貸家建築	平成18年10月２日
24	弥陀内遺跡	02263	確認調査	郡山字平成55の一部	アパート建設	平成18年10月19日
25	長坂前遺跡	02040	工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成18年10月20日
26	青木遺跡	02306	工事立会	福岡深谷字青木	下水管埋設	平成18年9月25日、10月20日
27	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町五丁目4の8	個人住宅建設	平成18年9月25日、10月25日
28	馬場台遺跡	02021	工事立会	越河五賀字馬場、宮下	下水管埋設	平成18年12月20日、平成19年１月10日
29	山道遺跡	02369	工事立会	越河字平字山道	下水管埋設	平成18年11月20日、29日
30	深山館跡	02154	工事立会	越河字深山腰	下水管埋設	平成18年10月30日、11月30日
31	一本木遺跡	02101	工事立会	福岡深谷字一本木	個人住宅建設	平成18年12月4日、平成19年１月15日
32	竹ノ中遺跡	02434	工事立会	大鷹沢三沢字五丁目154の4	個人住宅建設	平成19年１月10日
33	鷹巣古墳群30号墳	02005	工事立会	郡山字虎子沢山2の5、2の26	確認調査埋め戻し	平成19年１月18日
34	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町三丁目1の2の一部	アパート建設	平成19年２月13日
35	弥陀内遺跡	02263	工事立会	郡山字平成	下水管埋設	平成19年２月７日、２月15日
36	古御所遺跡	02113	確認調査	大平森合字坂下前24の4	確認調査	平成19年３月６日
37	下ノ明神遺跡 田上遺跡 三部山遺跡	02039 02043 02325	工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成19年１月24日～３月14日
38	大畑遺跡	02262	工事立会	堂場前146の5	個人住宅建設	平成19年３月13日
39	大畑遺跡	02262	発掘調査	堂場前145の5	個人住宅建設	平成19年２月５日～３月28日
40	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑20の2	個人住宅建設	平成19年３月30日
41	白石城跡	02197	確認調査	南町一丁目360の1	病院建設	平成19年４月12日
42	観音崎遺跡	02322	工事立会	郡山字観音崎1	個人住宅建設	平成19年４月13日
43	打越前遺跡 愛宕山遺跡	02026 02370	工事立会	越河平字打越前、愛宕山	用排水路工事	平成19年４月17日
44	弥陀内遺跡	02263	確認調査	十王堂前71の1	貸家建築	平成19年４月24日
45	本郷遺跡	02121	確認調査	沢目26の5	個人住宅建設	平成19年５月18日
46	下館遺跡	02307	確認調査	福岡深谷字下舘111の4	個人住宅建設	平成19年５月23日
47	前原北遺跡	02095	工事立会	福岡深谷字前原	下水管埋設	平成19年６月４日～８日
48	大畑遺跡	02262	確認調査	字東大畑59、60	住宅地造成	平成19年６月４日、５日
49	田中遺跡	02135	確認調査	大平中目字大柳前1	個人住宅建設	平成19年６月25日
50	鷹巣古墳群28号墳	02005	工事立会	鷹巣字堂ノ入山2の14	確認調査埋め戻し	平成19年６月25日

第２章　平成20年度における発掘調査成果

遺構が発見された調査を中心に記載する。なお、中近世陶磁器は本文での詳述を避け、一覧表に一括掲載した。また当該遺跡の関連資料も掲載した。

１　祢宜内遺跡

地　　点　①

県遺跡番号　02430

遺 跡 略 号　ＮＧ

所　在　地　白石市字祢宜内99-2、99-4、99-8、99-9、103-2番地

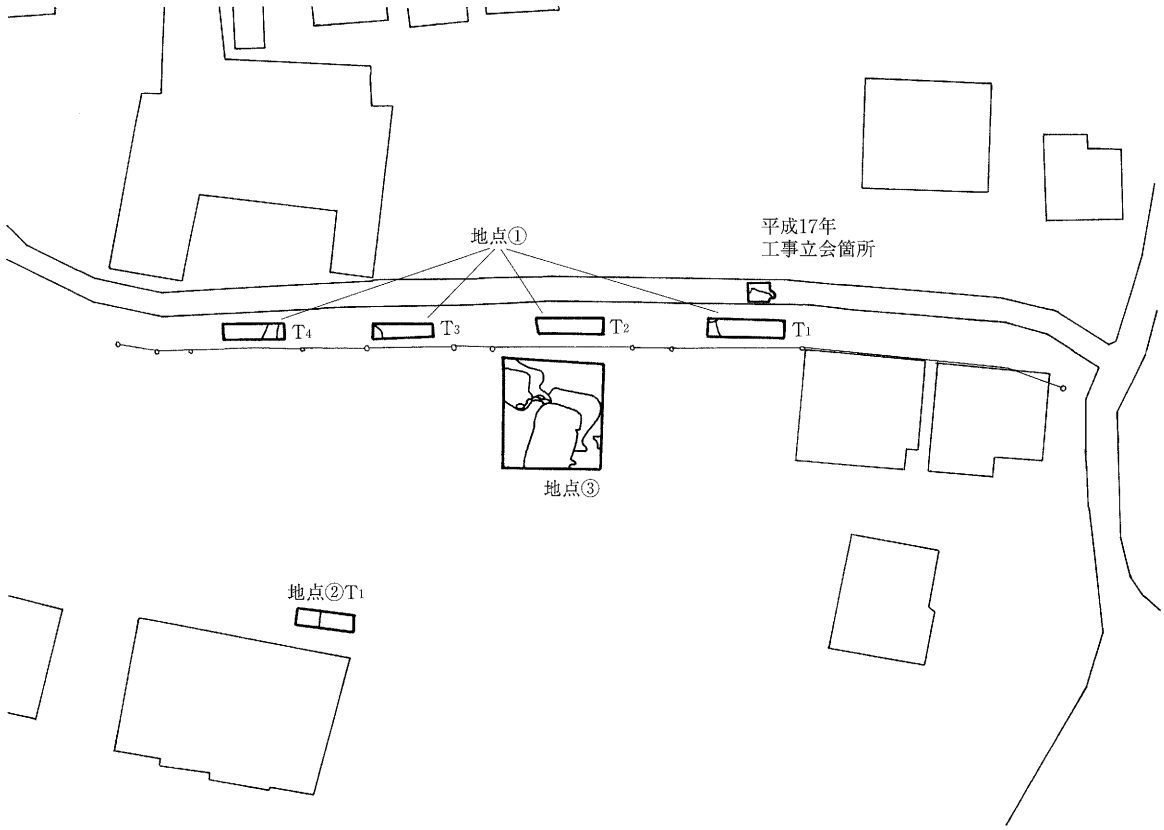
調 査 要 因　私道拡幅　調査期日　平成20年５月12日

調 査 面 積　185㎡（掘削面積28㎡）

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北へ約１kmの位置にあり、現況は畑地である。

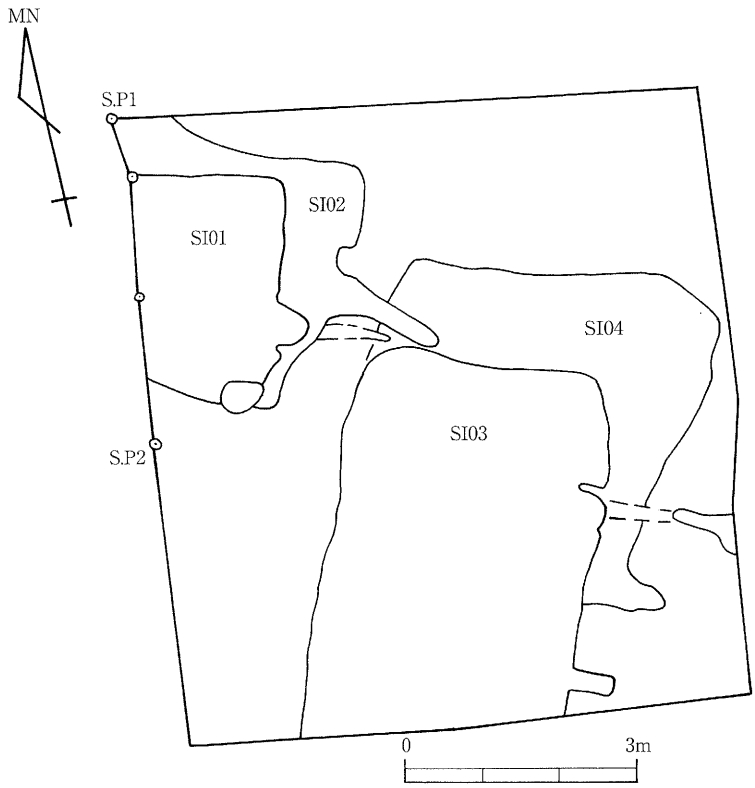
今回の確認調査箇所は平成17年９月８日～９日に公共下水道工事の工事立会で竪穴遺構が発見されていた箇所の南側である。事業地の東端は貸家に接続する下水管を保護する理由から、重機が入れず、確認調査対象から除外した。

確認調査トレンチは４カ所設定した。Ｔ１からは竪穴住居跡の竈部分が確認された。西側にカマドが設置されている。Ｔ４では南北方向の幅0.6mの溝１条、Ｔ３ではカクランとしたが、近世以降と



第２図　祢宜内遺跡調査区全体図（S＝1/600）

考えられる直径１ｍ以上の井戸跡が発見された。Ｔ３において第３層以下が東へ傾斜、Ｔ２において第３層上面が西へ傾斜していることから、この近辺に旧河道か沢が存在した可能性がある。両トレンチからは土師器、須恵器が出土するが、これらの堆積土に含まれる遺物と思われる。Ｔ２～Ｔ４では土師器、須恵器、Ｔ３の第２層からは近世陶器、Ｔ１では土師器、Ｔ４の溝の堆積土からは土師器が出土した。時期は７世紀後半頃と推定される。須恵器の中には会津大戸窯のものが含まれている。Ｔ４における基本層位は第１層、10YR4/1褐灰色シルト、18cm、第２層、10YR4/2灰黄褐色砂質シルト、30cm、第３層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、10cm以上、遺構確認面である。SD01の埋土は10YR3/2黒褐色砂質シルト、井戸跡の埋土は10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトであった。



第３図　地点③全体図（S＝1/100）

地　　点　②

所　在　地　白石市字祢宜内99-７、101-2番地

調 査 要 因　宅地拡張

調 査 期 日　平成20年５月15日

調 査 面 積　60㎡（掘削面積6.58㎡）

確認調査は既設土留めを避け、１ヶ所設定した。その結果、遺物包含層が発見されたが、含まれる遺物（土師器）の量はそれほど多くなかった。

基本層位は次のとおりである。基本的には道路敷拡張部分と共通である。Ｔ４における基本層位は第１層、10YR4/1褐灰色シルト、20cm、第２層、10YR4/2灰黄褐色砂質シルト、20cm、第３層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、13～20cm、第４層、10YR4/3にぶい黄褐色粘土、遺物包含層、6～12cm、第５層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、23cm以上。

地　　点　③

所　在　地　白石市字祢宜内99番３、99番５

調 査 要 因　個人住宅建設

調 査 期 日　平成20年５月15日～６月５日

調 査 面 積　316.25㎡（掘削面積63.75㎡）

今回の住宅建築で、深さ５ｍを越える柱状土壌改良が実施されることになったため、確認調査を実施し、埋蔵文化財が確認されたことから、発掘調査を実施した。

今回、竪穴住居跡が４棟発見された。それぞれ２棟づつセットになり重複関係にある。１号及び２号住居跡と３号及び４号住居跡が組になり、さらに前者が後者を切っている。それぞれ刳り抜き式の竈を持ち、東側辺中央よりも偏った位置に設置されるものが多い。焚き口付近には焼土、炭化物が多く見られた。

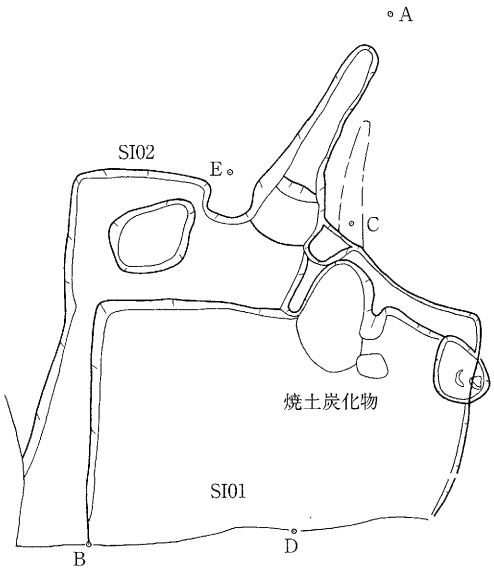
SI01竪穴住居跡、〔重複〕SI02、SI04と切り合い関係をもっており、それらより新しい。

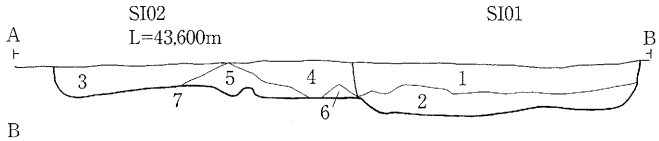
〔平面形、規模〕方形を呈するが、北辺はやや歪である。東辺で３ｍ、北辺で２ｍ以上の規模である。西側半分は調査区外である。〔埋土、壁、床面〕埋土は約40cmほど残っていた。床面はほぼ平坦である。壁は急に立ち上がる。主柱穴は認められなかった。〔カマド〕東側のやや南寄りに設置されている。煙道部分で1.2mほどあり、刳り抜き式である。燃焼部には長さ１ｍほどにわたって焼土、炭化物が多く見られた。両側の袖も良好に残っており、燃焼部に面した箇所は赤色化していた。南側袖の西側にも焼土、炭化物のまとまりがみられた。〔出土遺物〕復元できたものは少なかった。高坏が出土している。墨書土器片、石器も出土している。

SI02〔重複〕SI01よりも古く、SI04よりも新しい。〔平面形、規模〕方形を基調とする。東辺で3.5ｍ、北辺で３ｍ以上の規模である。西側は調査区外である。〔埋土、壁、床面〕埋土は約30cmである。南壁沿いにピットがあり、やや大きめの土師器片が複数出土した。底面近くでは坏が底面を北へ向け、突き刺さるような状況で発見された。東側の主柱穴の位置に土坑がある。柱痕跡を確認できず、柱穴として認定できなかった。〔カマド〕東辺中央付近にSI04の埋土を切って約1.4mほど煙道部が延びている。煙道部と燃焼部に段がある。燃焼部からは焼土、炭化物がまとまって発見された。本来は刳り抜き式であったと考えられる。〔出土遺物〕図示できるものは坏２点がある。墨書土器も出土している。

SI03〔重複〕SI04と切り合い関係にあり、それより新しい。〔平面形、規模〕南北に細長いやや歪な長方形の住居跡で、南北は5.3m以上で、東西は3.5mである。〔埋土、壁、床面〕埋土は60cm程である。主柱穴は確認できなかった。南西に直径60cm程の円形を呈するピットが１基、発見された。〔カマド〕東辺に２カ所確認された。北側のものは長さ2.3m以上で、東側は調査区外に延びている。袖も歪なＵ字形に残っており、刳り抜き式である。。燃焼部付近には焼土、炭化物が広く分布している。燃焼部中央は窪んでいる。南側のカマドは長さ60cmで、長方形を呈している。袖は確認されず、焚き口にあたる部分では焼土、炭化物が確認された。住居跡の掘り方の外で煙道沿いに小さなピットが発見されている。深さは12cmであった。〔出土遺物〕坏、甕などがある。北側カマド脇には甕が底面を上にしているのが発見された。縄文時代のものと考えられる石匙も出土している。

SI04〔重複〕SI03、SI02に切られている。〔平面形、規模〕南側はSI03によって切られているが、やや歪な長方形を呈すると考えられる。南北が４ｍ以上、東西は４ｍ程である。〔埋土、壁、床面〕





A－B

1：10YR5/3にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、４よりも若干黒味かかっている

2：10YR6/4にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、７のブロックを多く含む

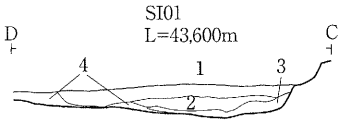
3：10YR5/4にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む

4：10YR6/4にぶい黄橙色シルト質砂、炭化物を若干含む

5：7.5YR5/4にぶい褐色シルト質砂、焼土を多く含む、炭化物を若干含む

6：10YR6/3にぶい黄橙色シルト質砂、７に類似している

7：10YR7/6明黄褐色砂、炭化物は含まない



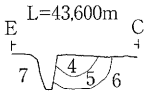
D－C

1：10YR5/3にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、４よりも若干黒味かかっている

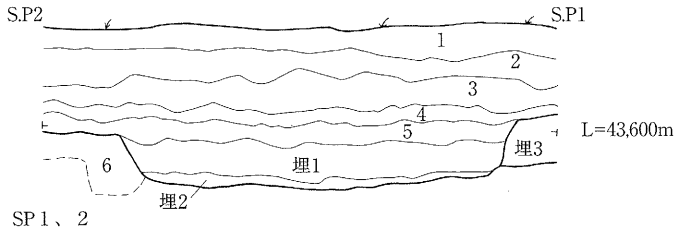
2：10YR6/4にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、７のブロックを多く含む

3：7.5YR5/4にぶい褐色シルト質砂、焼土を多く含む、炭化物を若干含む

4：10YR7/6明黄褐色砂、炭化物は含まない



A－B間と共通



SP１、２

1：表土、10YR4/1褐灰色砂質シルト

2：10YR5/2灰黄褐色砂質シルト

3：10YR5/6黄褐色シルト質砂、２及び３の小ブロックを多く含む

4：10YR6/1褐灰色砂質シルト、暗褐と灰褐色の混土、酸化鉄分が多く混じる

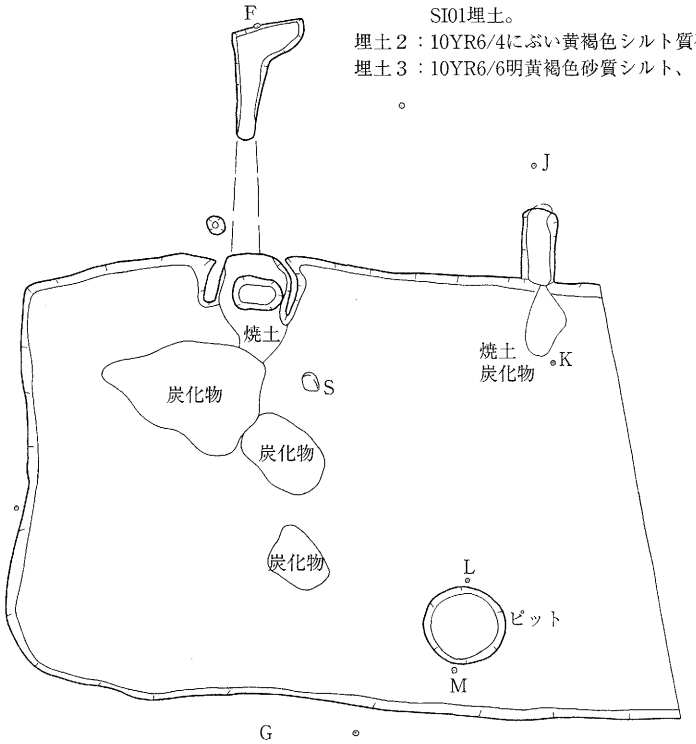
5：10YR6/2灰黄褐色シルト、６よりも若干灰色味が強い

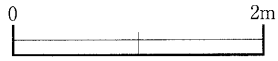
6：10YR7/6明黄褐色砂、炭化物は含まない

埋土１：10YR5/3にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、４よりも若干黒味かかっている。SI01埋土。

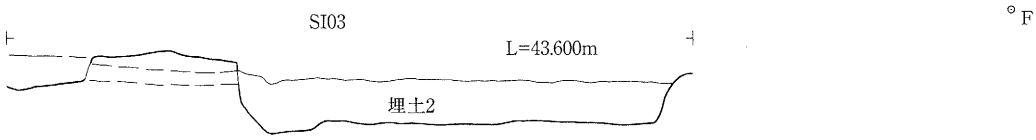
埋土２：10YR6/4にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、７のブロックを多く含む。SI01埋土。

埋土３：10YR6/6明黄褐色砂質シルト、６よりも若干黒味かかっている。SI02埋土。



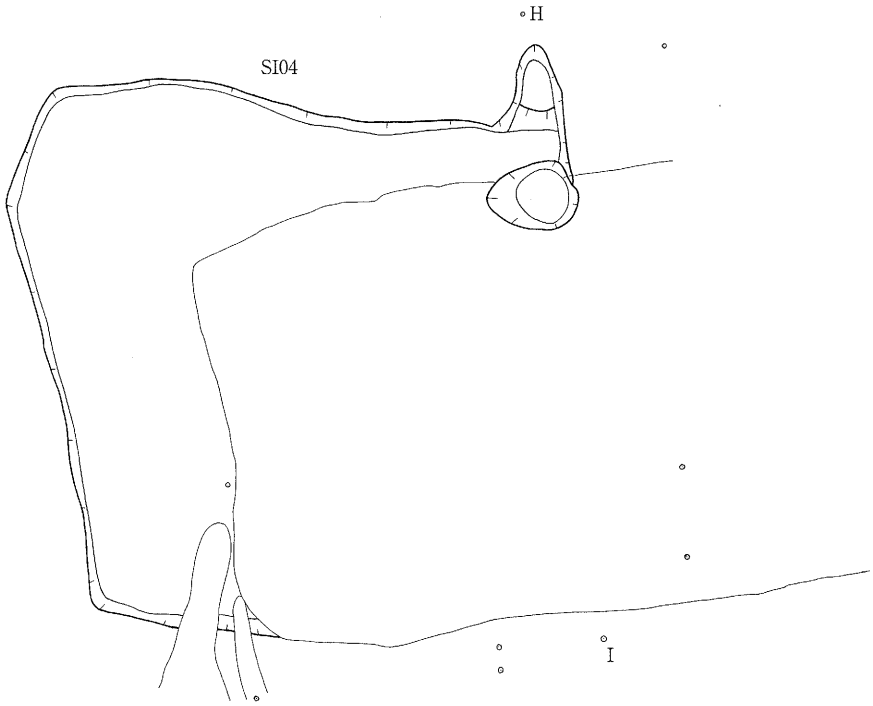


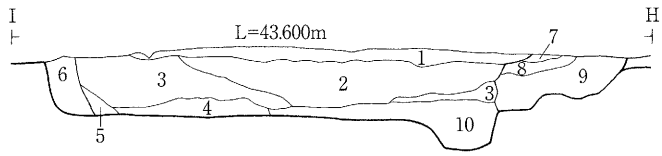
第４図　SI01、02、03等平面図、断面図（S=1/60）

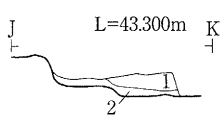


埋土２：10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト、炭化物を比較的多く含む、灰褐色ブロックを多く含む、人為的堆積

SI03
カマド前の焼土炭化物層の完掘状況







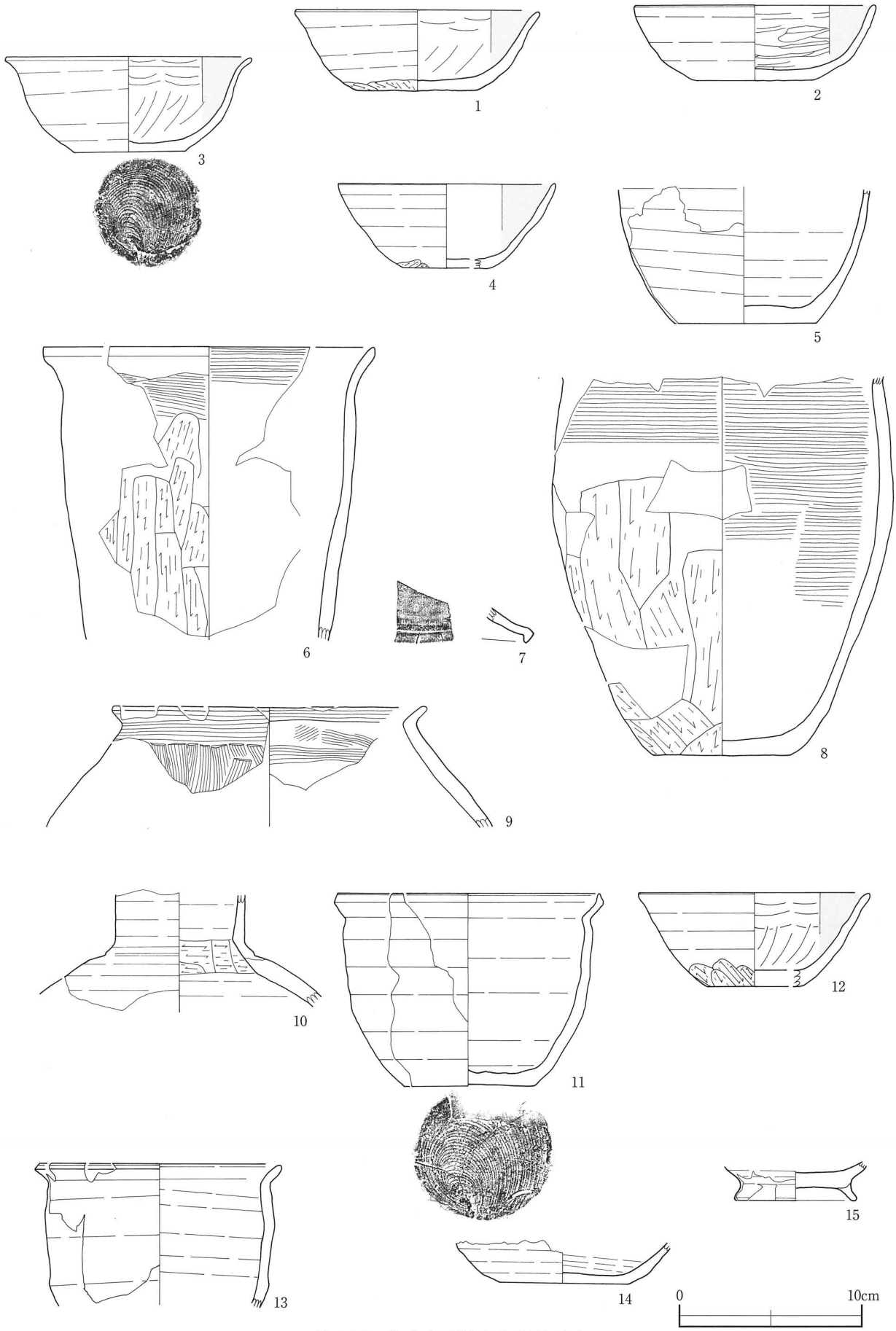
H－I
1：10YR6/3にぶい黄橙色シルト質砂、炭化物を若干含む
2：10YR5/3にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、1よりも若干黒い
3：10YR6/2灰黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む
4：10YR6/2灰黄褐色シルト質砂、炭化物を多く含む
5：10YR6/4にぶい黄橙色シルト質砂
6：10YR7/4にぶい黄橙色シルト質砂
7：10YR6/3にぶい黄橙色シルト質砂、炭化物を多く含む
8：10YR7/2にぶい黄橙色シルト質砂、炭化物を若干含む
9：10YR5/2灰黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む
10：10YR6/2灰黄褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、焼土を多く含む

M－L
1：10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト、炭化物、焼土粒を若干含む

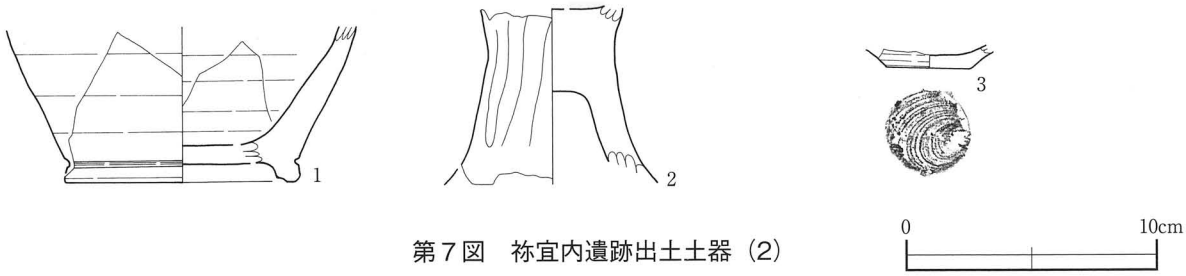
J－K
1：10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト
2：10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト、炭化物を多量に含む、焼土を若干含む

0　2m

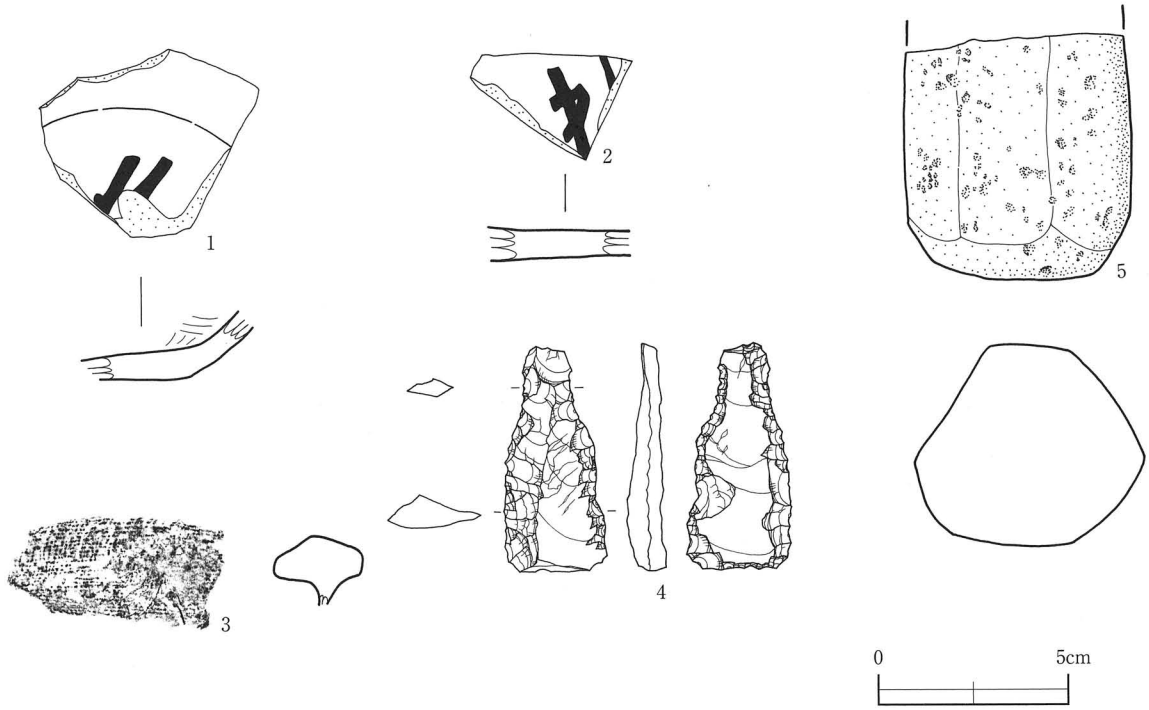
第５図　SI03、04平面図、断面図（S=1/60）



第６図　祢宜内遺跡出土土器（1）



第７図　祢宜内遺跡出土土器（2）



第８図　祢宜内遺跡遺跡出土墨書土器等

埋土は約40cmである。主柱穴は確認できなかった。〔カマド〕東辺にカマドがあるが、長さ60cmほどで短い。燃焼部にはピット状の掘り込みがある。〔出土遺物〕坏、甕が出土している。東辺近くでは、大戸産須恵器長頸瓶が内面を上にして出土している。

遺物の大半は埋土からの出土であり、床面のものは少なかった。土師器、須恵器でロクロを使用するもので、表杉ノ入式のもので、９世紀代と考えられる。完形品は少なく、破片が多い。会津大戸窯の須恵器も含まれている。

２　大畑遺跡

地　　点　①

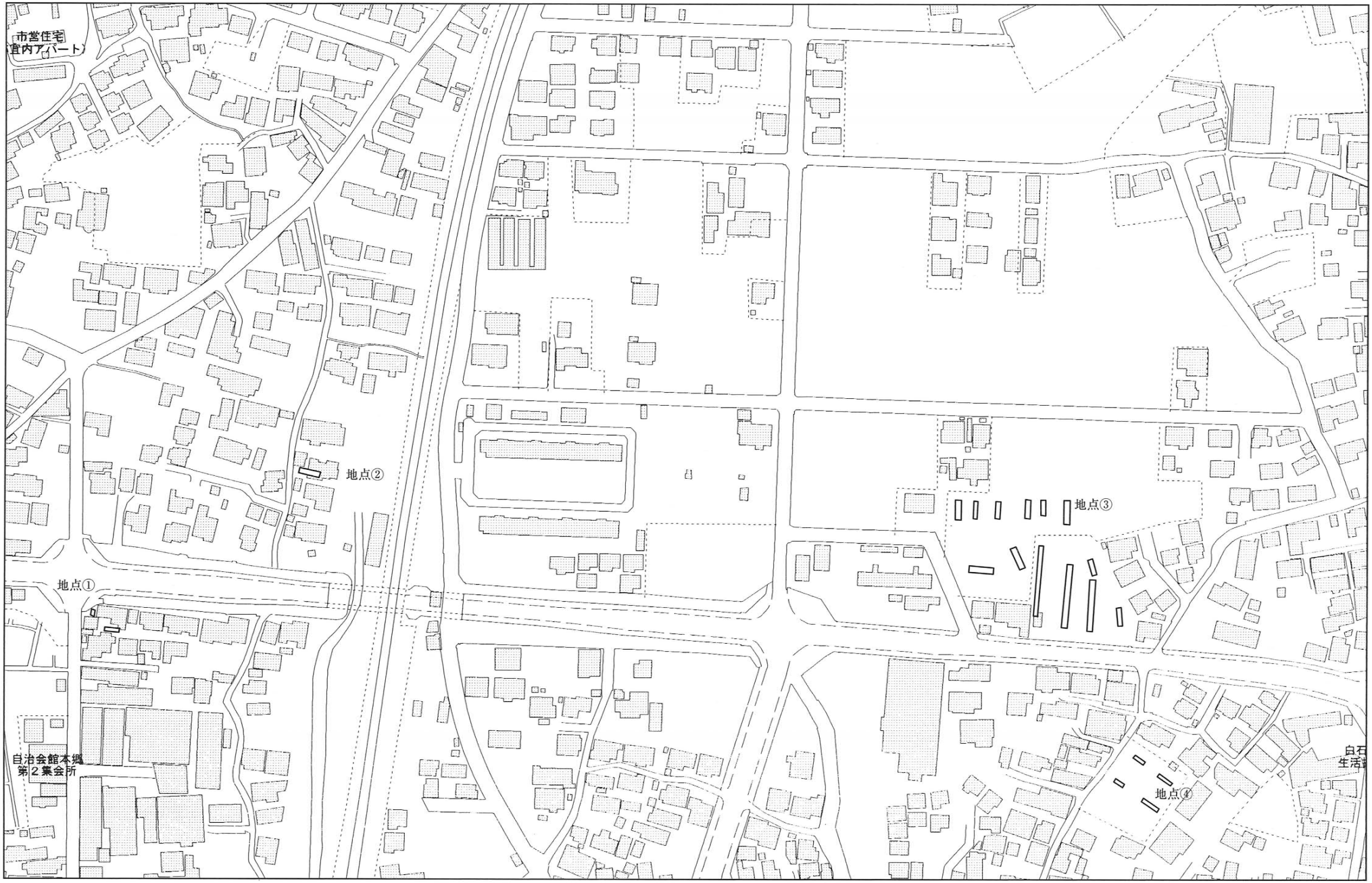
所　在　地　白石市字不澄ヶ池71番13

調 査 要 因　個人住宅建設

調 査 期 日　平成20年６月３日

調 査 面 積　266.54㎡（掘削面積10.2㎡）

今回の調査箇所は国道113号線の南側で、西側は延命寺となる所で、JR東北本線白石駅から北西へ



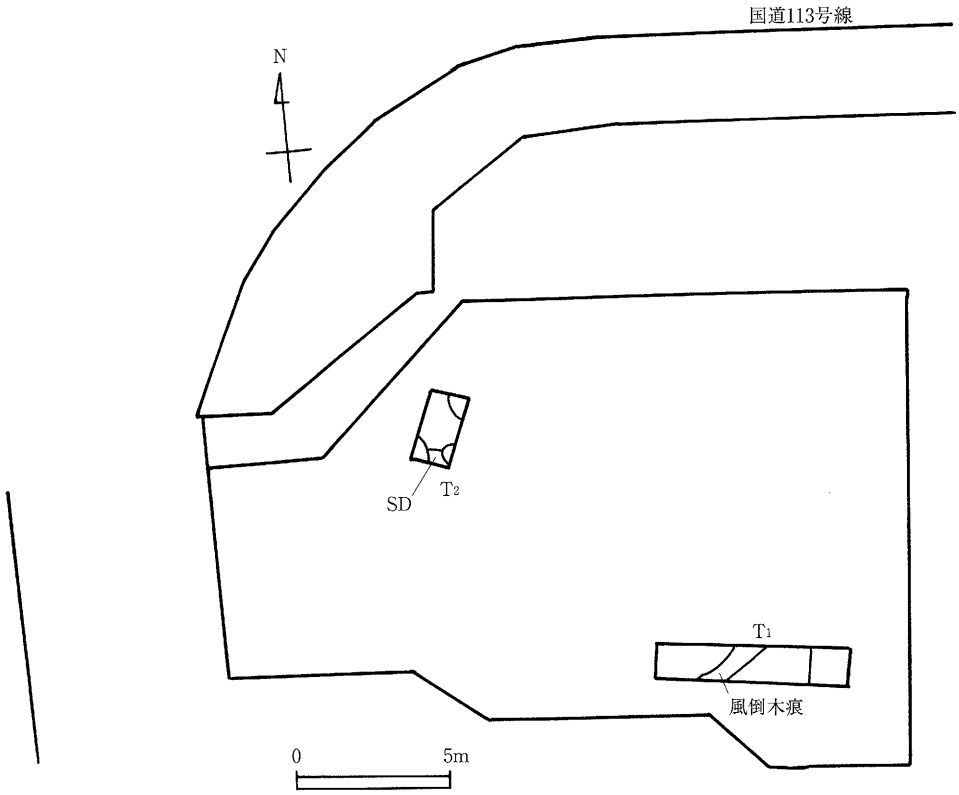
第９図　大畑遺跡調査地位置図（S=1/2,500）

0.45kmの位置である。周囲は住宅地、工場用地となっている。個人住宅地建て替えに伴い、確認調査を実施しした。

トレンチは水道管、隣地と近接する箇所、住宅建築部分を避けて２箇所設定した。調査の結果、Ｔ１では土師器細片１点、風倒木痕１箇所、Ｔ２では、溝状遺構１条、遺物包含層１箇所が発見された。これらの埋土は第２層に類似していた。土師器はＴ１の第２層、Ｔ２の４層、遺物包含層から出土している。遺物包含層の遺物はそれほど多くない。Ｔ２の基本層位は第１層、表土10YR4/1褐灰色シルト、18cm、第２層、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、灰褐色ブロックが混じる、17cm、第３層、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、28cm、第４層、10YR6/1褐灰シルト、10cm、第５層、10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、5cm以上、上面が遺構確認面である。

風倒木痕は３層上面で確認された。溝跡と想定して精査したが、層が斜めに入り込んでおり、風倒木痕と判断した。

地　　点　②
県遺跡番号　02262
遺 跡 略 号　ＯＨ
所　在　地　白石市字大畑二番39-1
調 査 要 因　個人住宅建設
調 査 期 日　平成20年６月10日



第10図　大畑遺跡地点①平面図

調 査 面 積　294.25㎡（掘削面積22㎡）

今回の調査箇所はJR東北本線白石駅から北へ約0.6kmの位置にある。周囲は住宅地、鉄道用地となっている。個人住宅地建て替えに伴い、確認調査を実施した。

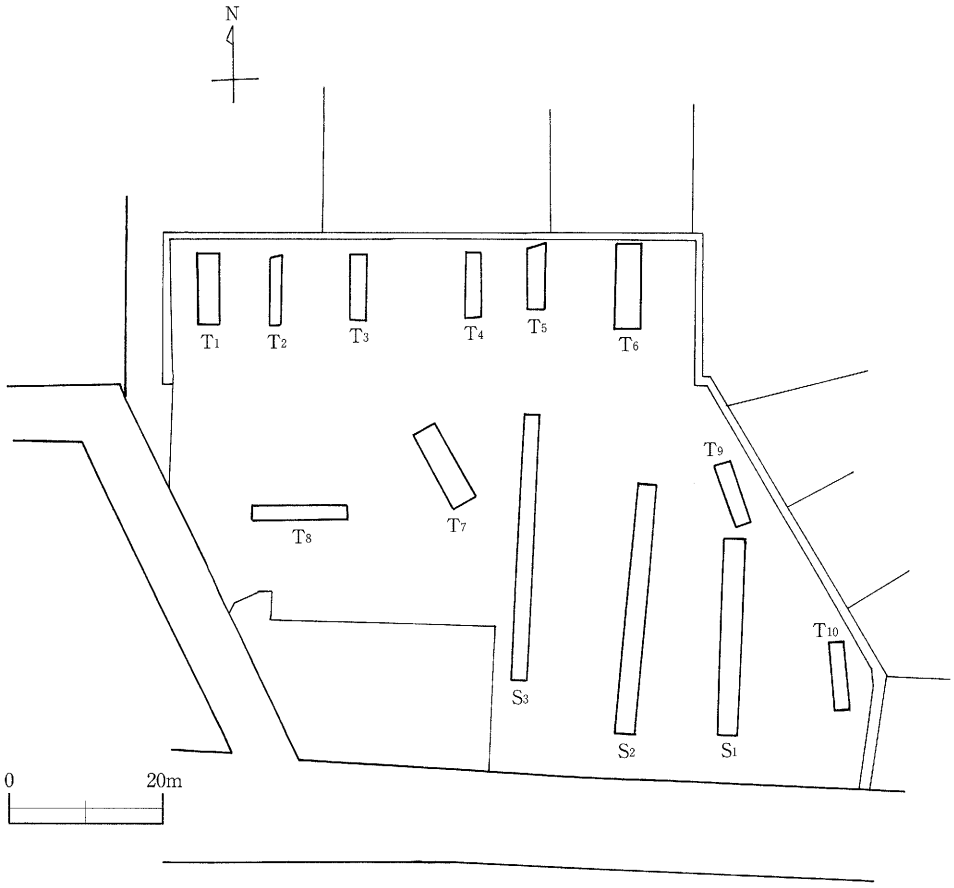
調査の結果、表土下55cmほどで遺構が確認された。残存状況不良の竪穴住居跡１棟、ピット２基が確認された。住居跡は東側に竈を持ち、一辺が５ｍほどの規模と推定される。埋土からは多量の土師器、炭化物が出土している。ピットは直径25cm、35×23cmの大きさであった。竪穴住居跡埋土埋土は10YR4/1褐灰色シルト、炭化物を多く含む、第３、４層よりも若干黒味かかっている。ピット１埋土は10YR4/1褐灰色シルト、炭化物は少ない、ピット２埋土は7.5YR6/1褐灰色シルト、炭化物を若干含む、住居埋土よりも灰色味が強い。

基本層位は次のとおり。第１層、表土、盛土で礫、石炭滓を多く含む、38cm、第２層、５PB5/1青灰色粘土質シルト、酸化鉄分を多く含む、12cm、第３層、10YR6/4にぶい黄橙色シルト、土師器を含む、下の４層よりも若干灰色ががっている、15cm、遺構検出面。第４層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト、５cm以上である。

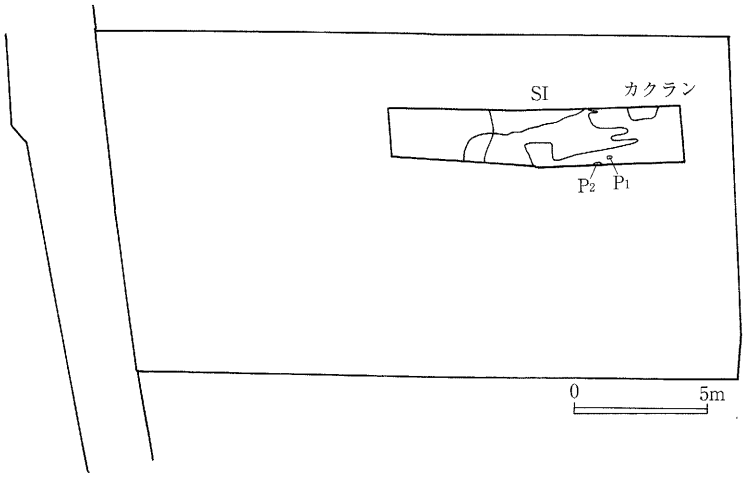
地　　点　③

所　在　地　白石市字東大畑96-1、97の一部、98の一部、99の一部、115-4、115-1、116-1、116-2

調 査 要 因　店舗建設



第11図　大畑遺跡地点③平面図（S=1/1,000）



第12図　大畑遺跡地点②平面図（S=1/300）

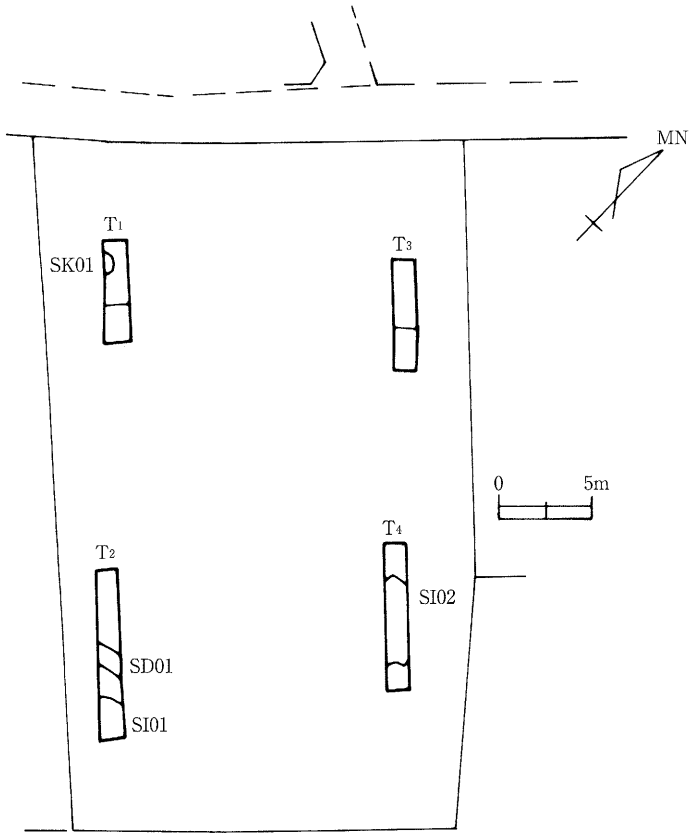
調査期日　平成20年11月4日～6日

調査面積　4,496.63㎡（掘削面積118㎡）

今回の調査箇所はJR東北本線白石駅から北東へ約0.63kmの位置にある。周囲は住宅地、農地となっている。店舗建設に伴い、確認調査を実施した。トレンチはコンクリートブロック等を避け、計10箇所設定した。なお、今回の事業区の一部は平成９年に確認調査が実施されている。この時はトレンチが３本設定され（図ではＳトレンチと呼称）、計226㎡が掘削面積となっている。

調査の結果、土器等が発見された。Ｔ１では第２層から土師器、須恵器（強風で飛ばされ、紛失）、Ｔ３では第３層から近世陶器、旧水路跡埋土から須恵器甕破片、Ｔ６の第３層からは縄文時代後期初頭の同一個体の土器が散らばって発見された。Ｔ７からは土師器、須恵器が発見された。

Ｔ４では方形基調の撹乱、圃場整備以前の水路跡が確認されたが、表土直下から掘り込まれていた。Ｔ５西壁際では、幅50cm、深さ35cm溝状落ち込みが確認されたが、３層が堆積土になっており、近世以降のものと推定された。Ｔ６では北へ向かって第３層の黒褐色土が傾斜し、縄文土器が含まれ、沢跡か河道跡と考えられた。



第13図　大畑遺跡地点④平面図

基本層位は何れも類似しているが層厚はそれぞれ異なっている。Ｔ１の第１層、水田耕作土、10YR5/1褐灰色シルト、23cm、第２層、10YR5/2灰黄褐色シルト、22cm、第３層、10YR4/1褐灰色シルト、18cm、第４層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト、45cm、第５層、10YR5/4にぶい黄褐色砂礫層、玉砂利、層厚不明であった。

地　　点 ④

所　在　地　白石市字大畑一番146

調 査 要 因　駐車場建設

調 査 期 日　平成21年３月16日

調 査 面 積　555㎡（掘削面積32.51㎡）

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北東へ約0.62kmの畑地である。周囲は南隣を除き、宅地となっている。

確認調査トレンチは計４本設定した。その結果、竪穴住居跡２棟、溝跡１条、土坑１基、土師器、須恵器、近世磁器などが発見された。Ｔ１では長軸１ｍ、短軸0.5ｍ以上の土坑１基、Ｔ２では北東から南西へ延びる幅１ｍの溝跡、一辺が1.3ｍ以上の竪穴住居跡１棟、Ｔ４では一辺が４ｍ程と推定される竪穴住居跡１棟が発見された。この住居跡には東側に焼土を伴うので、東側に竈があったと推定される。

遺構確認面は、いずれも第３層上面となっている。SI01の埋土は10YR4/1褐灰色シルト、SD01は10YR3/1黒褐色シルト、SI02は10YR3/1黒褐色シルト、焼土は10YR4/8赤色シルト、SK01は第２層と第３層の混土である。Ｔ４における基本層位は第１層、表土、10YR5/2灰黄褐色シルト、30cm、第２層10YR4/1褐灰色シルト、20cm、第３層、10YR6/4にぶい黄褐色シルト、層厚不明となっている。Ｔ１だけが層相が異なり、他のトレンチの第２と第３層に対応する層の間に別な層（第２層と第３層の混土）が存在する。

３　田中遺跡、田中環濠遺跡

県遺跡番号　02135、02285

遺 跡 略 号　ＴＮ

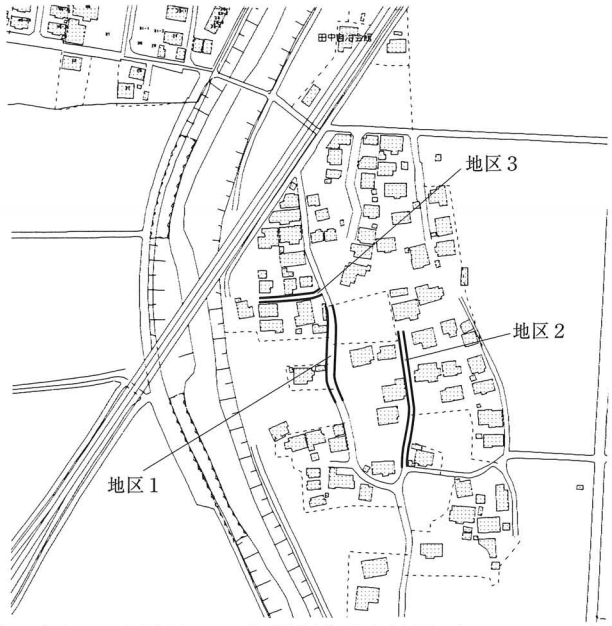
所　在　地　白石市大鷹沢三沢字田中、東町六丁目ほか

調 査 要 因　下水道管埋設

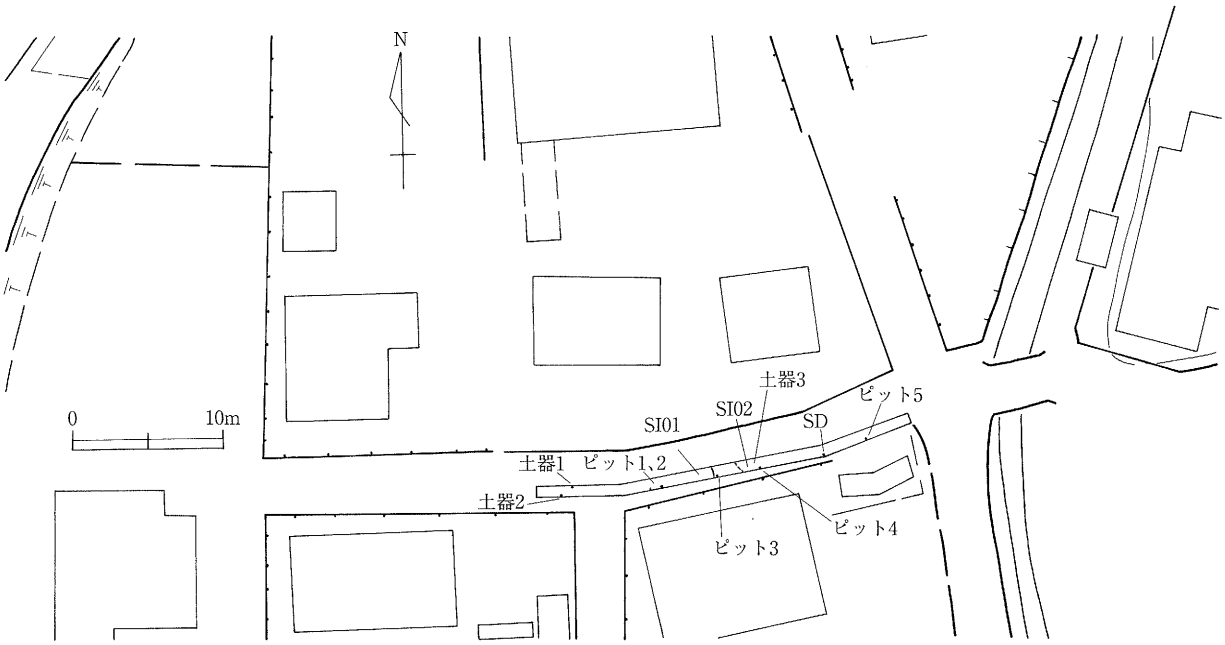
調 査 期 日　平成20年８月20日～12月３日

調査対象面積　898㎡

田中遺跡、田中環濠遺跡跡は東北新幹線白石蔵王駅から南西へ約0.9kmの沖積平野にある。現状は主として宅地、畑地となっている。田中遺跡は東北新幹線建設時に発掘調査が実施された遺跡である。田中環濠遺跡は昭和49年には市史編纂に伴い、測量調査が実施されていた遺跡である。周囲に水濠が巡る遺跡で、鎌倉時代～室町時代の居館跡と推定されていた。



第14図　田中遺跡、田中環濠遺跡全体図（S=1/5,000）



第15図　田中遺跡地区３詳細図（S=1/500）

今回、公共下水道工事に伴い工事立会を実施した。工事の一部は、シールド工法が採用されたため、地面の掘削が行われなかった箇所がある。立会の結果、３箇所で埋蔵文化財が発見された。

１の箇所では９世紀頃の甑の取手が発見された。出土した層位は旧表土と推定された。様々な土が混じっていたことから、沢か堀状の地形であったことが推定された。

２の箇所は田中環濠遺跡の中央であることから、細心の注意を払いながら立会を行った箇所である。土師器の出土があったものの、新しいガラス片、陶磁器片、木片を含む層が堆積していた。付近の畑地からは近世陶磁器に混じって、１点ではあるが中国産青磁碗蓮弁文片（13世紀～14世紀）が出土した。基本層位は第１層、道路敷盛土、30cm、第２層、暗褐色シルト、旧表土、17cm、第３層、茶褐色シルト、70cm以上である。

３の箇所は遺構、遺物の密度が高かった箇所である。竪穴住居跡２棟、ピット５基、幅1.5mの溝跡１条が発見された。住居跡１は長さ６ｍ以上、ピット３基、住居跡２はピット１基を伴うものであった。ピット５は単独で発見された。遺構の時期は南小泉式期と考えられる。８世紀末から９世紀初めの坏も出土している。図示しなかったが、ハケメが施された甕の底部片（７世紀代）がある。

４　白石城跡

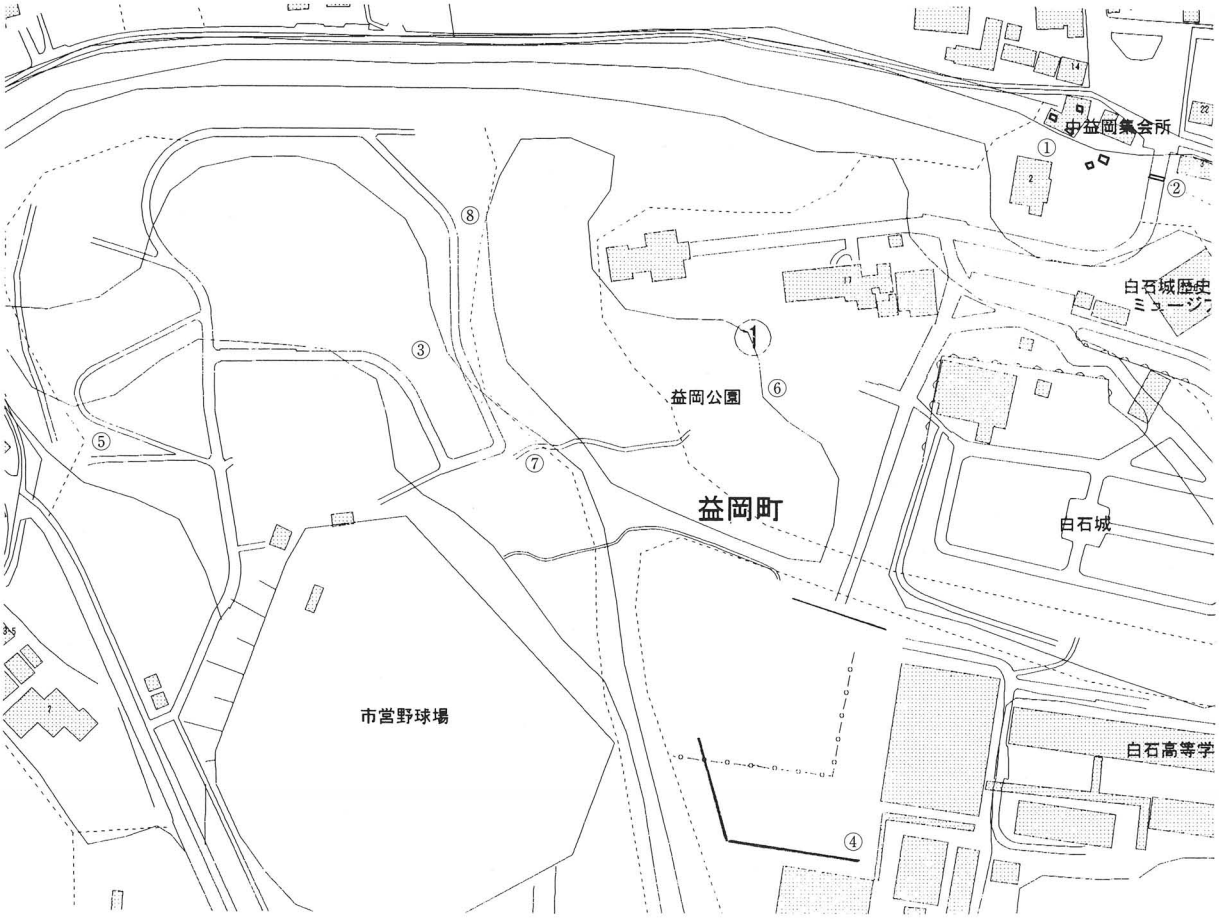
県遺跡番号　02197

遺 跡 略 号　ＳＪ

所　在　地　白石市益岡町

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から0.8kmの丘陵上に位置している。当該地の現況は公園、社地、学校用地等である。

地点①は益岡町125番地２における個人住宅建設に伴う確認調査である。対象面積は297.16㎡で、



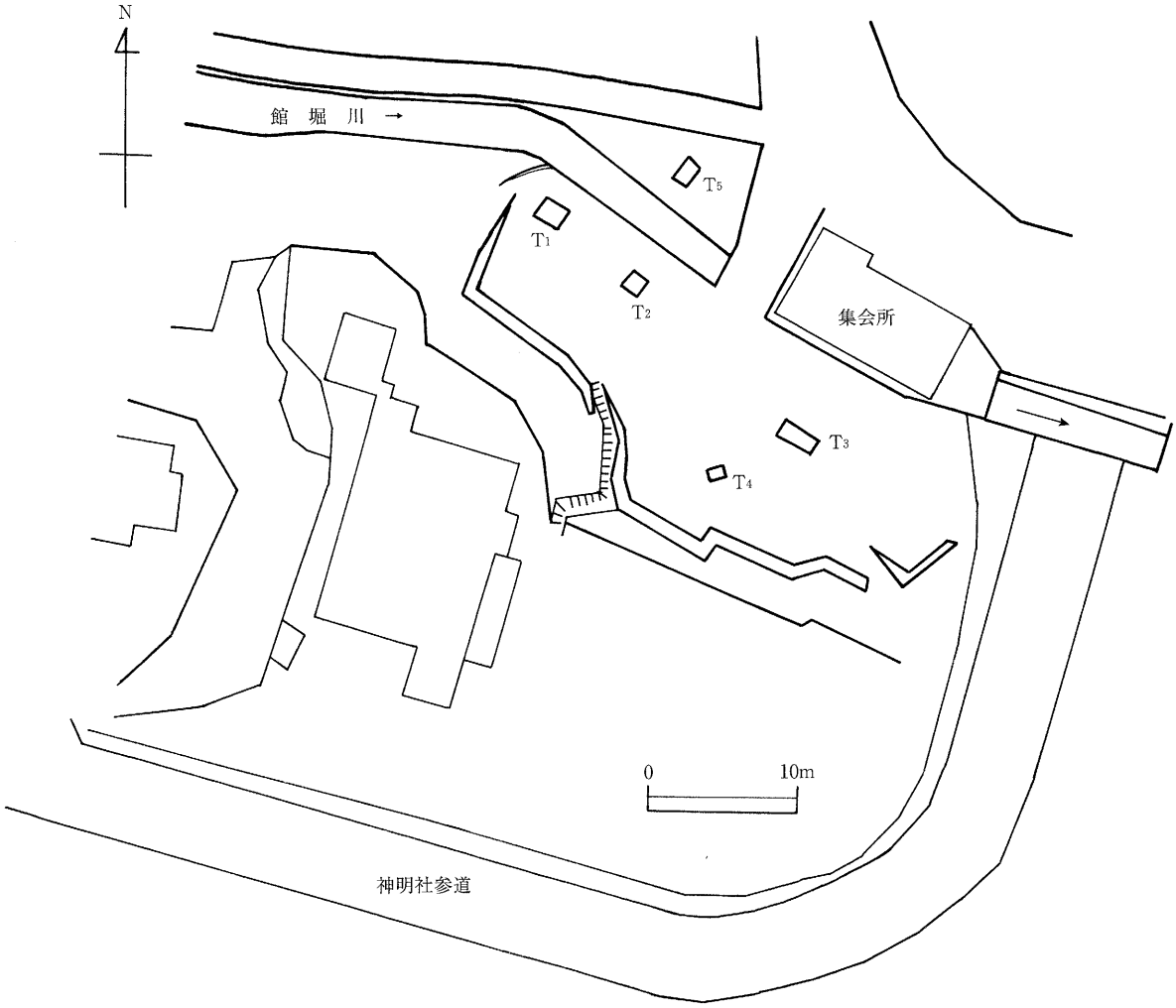
第16図　白石城跡調査地位置図（S=1/2,500）

掘削面積は10.95㎡である。調査の結果、遺構は確認されず、Ｔ１のみで多様な遺物が出土した。縄文時代早期、後期、晩期、弥生時代中期の円田式の土器、スクレーパー、近世以降の陶磁器、土人形があり、時代的なまとまりを欠いている。以前、建物があった箇所で、表土からの出土であることを考慮すると、過去の収集品が紛れ込んだ可能性がある。他のトレンチでは、表土下は10YR5/4にぶい黄褐色シルトの盛土などで、ビニール片を含むことから新しい時代のものと考えられた。

地点②は益岡町125番地２における個人住宅の水道管埋設に伴う工事立会である。対象面積は9.8㎡である。掘削土から陶磁器１点が出土した。

地点③は益岡町81-1における県営ロッククライミングボード撤去に伴う工事立会である。対象面積は357㎡である。掘削範囲の東壁北端付近で、暗灰褐色土の落ち込みが確認されたが、詳細は不明であった。

地点④は益岡町2-7における白石高校グランド整地及び防球ネット設置に伴う工事立会である。対象面積3,440㎡である。現状のグランドに盛土を行うものであるが、ネット柱設置のため、掘削される箇所があることから工事立会を実施した。その結果、既存テニスコート側から南へ２本目のコンクリート柱掘削土から近世陶磁器２点が出土した。なお、テニスコート西側の土塁上には「奉献　昭和四年一月檜植付四百五拾本土地壱反五畝拾歩　明治二十一年同年会」の石碑があり、裏面に76名の名前が記されている。廃城後の土地利用を示すものである。



第17図　白石城跡地点①平面図（S=1/500）

なお、益岡公園周辺では陶磁器が表採されるので、地区を明示して掲載した。京信楽系陶器などは注目されるものである。また、地点⑧では陶磁器と共に水晶片を表採したが、帰り道に野球場東側斜面から二の丸公園周辺で紛失した。

5　白石会所跡

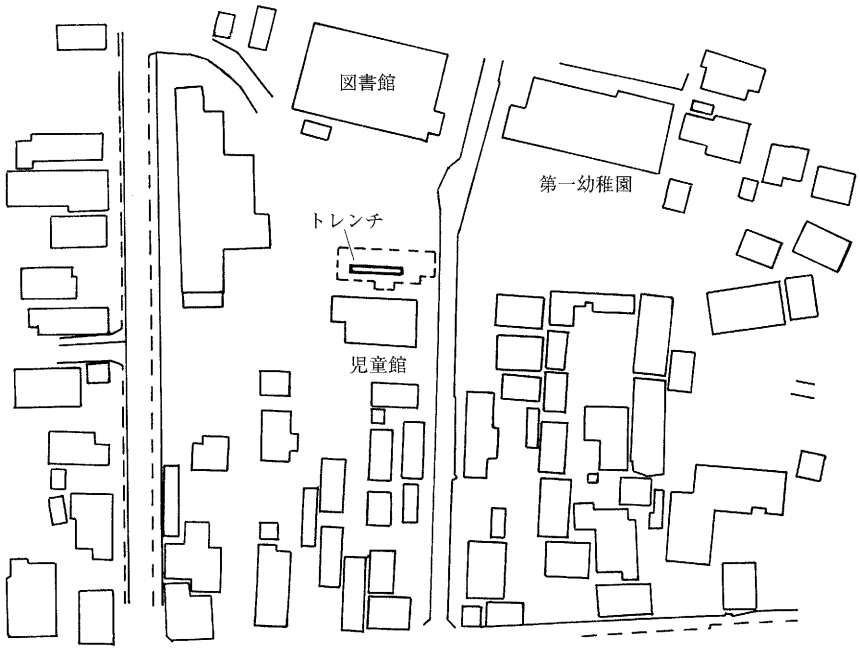
県遺跡番号　02445

遺 跡 略 号　ＳＫＡ

所　在　地　白石市亘理町37-1

調 査 面 積　228㎡（掘削面積19.5㎡）

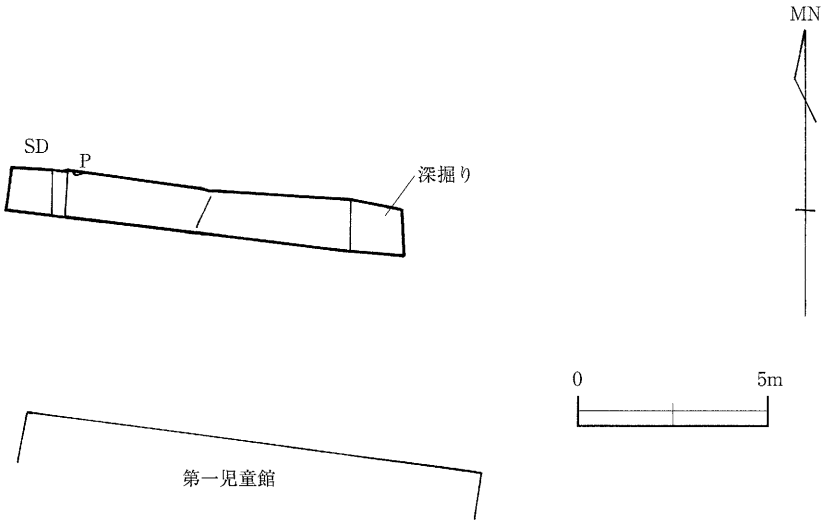
遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から北西へ約0.75kmの文教地区に位置している。周囲には白石市立第一小学校、第一幼稚園、第一児童館、情報センター、図書館が当該調査地を取り囲むように立地している。この箇所はこれまで、白石市図書館・公民館（旧刈田病院本館、明治15年建築）、として利用されていた建物があった場所で、歴史史料から近世においては白石会所跡が存在した箇所ではないかと推定されていた。



第18図　白石会所跡平面図（S=1/2,000）

調査ではトレンチ１箇所を設定した。その結果、溝跡１条、ピット１基、近世陶磁器類が多数出土した。トレンチ西端における基本層序は次のとおりである。第１層、表土、盛土、10YR4/1褐灰色土、10cm、第２層、盛土、2.5Y7/3　浅黄色砂、10cm、第３層、10YR3/1黒褐色土、焼土、炭化物を多く含む、9cm、第４層、10YR5/1褐灰色シルト質砂、炭化物を多く含む、25cm、第５層、10YR6/3にぶい黄橙色土、酸化鉄を多く含む、層厚不明。遺物取り上げ等はトレンチ西側を①、中央は②、東側は③とした。

第３層の焼土、炭化物を含む層は、昭和28年の白石小学校表校舎火災に伴う地層と考えられる。焼土の上に盛り土を行い、旧刈田病院本館移転を行ったものと推定される。溝跡（幅25～35cm、長さ130cm以上）は第４層上面から掘り込まれていた。方形基調のピット（直径40cm）は第５層上面で発見した。第１層～第３層から陶磁器が出土した。トレンチ中央、東側でも上記と同様の層序である。西端４層と中央・東側４層が対応するが、炭化物が含まれていないのが特徴である。中央と東側４層でも陶磁器が出土している。陶磁器は全体として17～18世紀代にまとまりをもっている。



第19図　白石会所跡トレンチ図（S=1/200）

白石会所跡の歴史的背景について

ここでは、本遺跡の調査結果を踏まえ、この場所の歴史的背景について述べたい。

既述のように、現在教育施設が建ち並ぶ本遺跡周辺は、明治の頃から白石小学校（現白石第一小学校）の敷地となっている。大正４年に制定された同校の校歌に、

明治のみかど（天皇）畏くも　かりのみやゐ（宮居）にあてたまふ

栄（はえ）あるには（学校）は　その昔　藩主の君の　かりやかた

という歌詞があった。この部分は今では歌われなくなっているが、この場所がかつてどういう場所であったかをよく伝えるものとして大変興味深い。

まず最後の一節、「藩主の君の　かりやかた」とは、この地に仙台藩主やその世子等が利用したといわれる御仮屋（本陣）が置かれていたことを指している。

そしてその周辺には、刈田郡の代官や大肝入の会所、それに付属の蔵など藩関連の施設が数多く建てられていた。貞享４年（1687）、大肝入山崎七郎兵衛は、それまで別の場所にあったこれらの施設を自己の土地であるこの地に移転している。今回の調査で出土した17～18世紀の陶磁器類は、これら会所や本陣にて使用されていたものと考えられよう。（ちなみに、古写真や図面等から察するに、今回調査したのはおそらく本陣の建物にかかる場所と思われる。）

近世の白石は、仙台藩重臣片倉家１万８千石の城下町であったが、藩はこうした大身の給人達が持つ強固な支配権の乱用防止と縮小を図り郡奉行を設置し、その代官を在地に派遣していた。そして、代官とその命を受けた大肝入ほかの村役人達が民政を司った。彼らの会所は、白石ほか大河原、亘理など藩内各地に設置されていた。

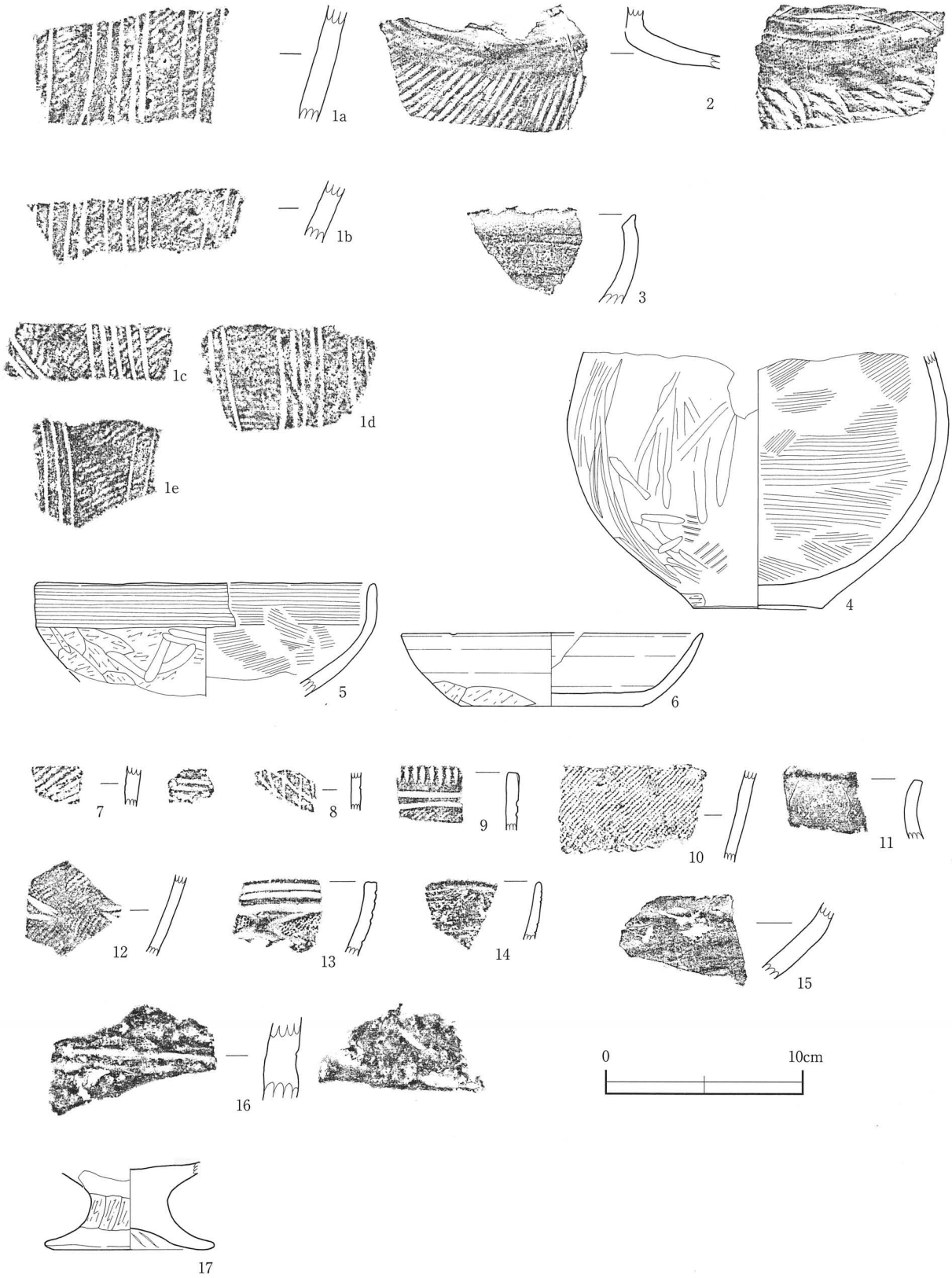
さて、白石会所は貞享４年の移転以後は変わることなく明治を迎えるが、その後この場所はどうなったか。

まず、明治５年４月には役場が、同９年４月には小学校が設置された。同年６月と14年８月には、明治天皇が巡幸の際の行在所（あんざいしょ）として旧本陣を利用している。先の校歌にある「明治のみかど」云々のくだりは、この時のことを指す。その後、役場が別の場所に移転し、児童数の増加による校舎ほか付属施設の新築及び増改築が度々行われており、結果として旧藩時代の建物は順次取り壊されていった。旧本陣の解体後、玉座の間跡地に奉安殿（明治41年）が、その北に明治記念文庫（大正３年）が、南には武徳殿（大正10年）が建設されているが、奉安殿と武徳殿（一時公民館として利用された）が戦後程なく、図書館として利用されていた明治記念文庫が昭和58年に解体されている。

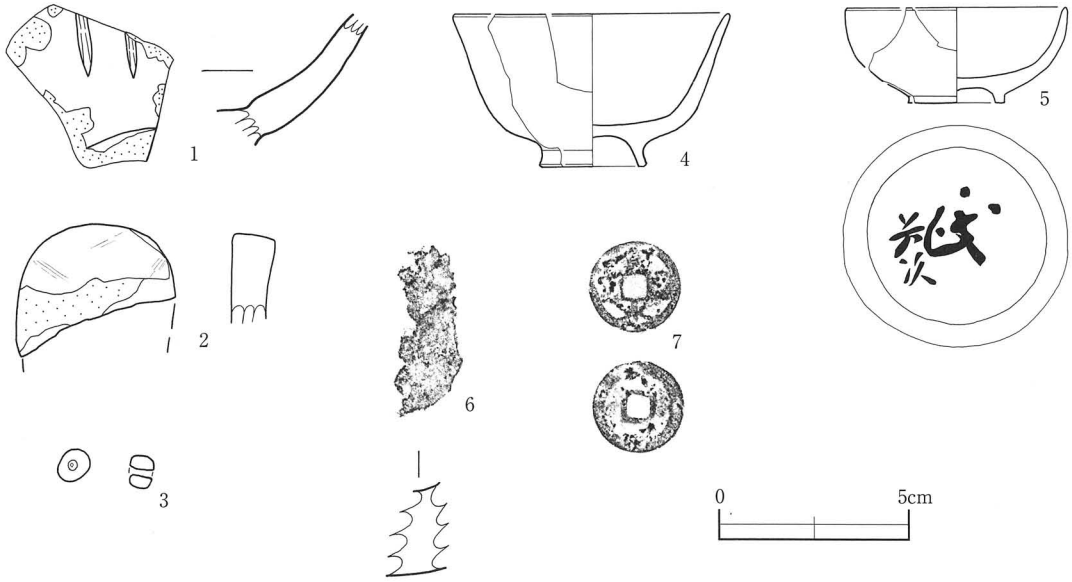
旧刈田病院本館（既述）が移築されたのは昭和31年で、後に警察署及び消防署の設置に伴い明治記念文庫と共に少々東に移転している。これは、平成20年に市指定文化財となり、解体保存された。今回の調査は、この旧刈田病院本館解体に伴い行われたものである。

以上のように、本遺跡周辺は、近世には会所や本陣といった藩の施設が建ち並び、明治以後は幾多の建物の解体、建設が繰り返し行われ今の文教地区が形作られてきた。（櫻井和人）

【主要参考文献】『白石市史　１・４』『白石小物語』『白石市文化財愛護友の会　会報第31号』『仙台市史　近世１』『明治天皇聖蹟志』『明治100年白石風物誌』



第20図　発見された遺物（1）



第21図　発見された遺物（2）

祢宜内遺跡　出土遺物観察表（1）

図版番号	出土遺跡、位置	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第６図１、写真図版4-6	SI02南西ピット	土師器坏	ロクロナデ、ケズリ、回転糸切	ヘラミガキ、黒色処理	推定口径13.3cm、推定底径6cm、高さ4.4cm
第６図２、写真図版4-1、２	SI02カマド焚口、カマド埋土４	土師器坏	ロクロナデ、回転糸切	ヘラミガキ、黒色処理、灯明皿へ転用か	推定口径13.2cm、推定底径6.4cm、器高4.1cm
第６図３、写真図版4-5	SI02南東SK埋土	土師器坏	ロクロナデ、ヨコナデ、回転糸切	ヘラミガキ、黒色処理	推定口径13.3cm、底径6cm、器高5.2cm
第６図４	SI03カマド前、SI04東区埋土２	土師器坏	ロクロナデ、ケズリ、回転糸切	マメツ、黒色処理	推定口径11.8cm、推定底径4.6cm、器高4.6cm
第６図５	SI03カマド脇	土師器甕	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ、黒色物質付着	底径7.6cm、残存高7.5cm
第６図６	SI03埋土１、２	土師器甕	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、マメツ	推定口径18cm、残存高16cm
第６図７	SI03埋土北半	須恵器蓋	ロクロナデ	ロクロナデ	
第６図８	SI03カマド焼土、埋土２	土師器甕	ヨコナデ、ケズリ、茶褐色物質付着	ヨコナデ	推定底径7.5cm、残存高20.6cm
第６図９	SI03埋土１	土師器球胴甕	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	推定口径17cm、残存高6.5cm
第６図10、写真図版4-4	SI04埋土９	須恵器長頸瓶	ロクロナデ、自然釉、リング状突帯	ロクロナデ、ケズリ	頸部径7cm、残存高6.6cm、９世紀代、会津大戸産
第６図11	SI04東区埋土２	土師器甕	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	推定口径14.2cm、底径7.2cm、器高10.5cm
第６図12	SI04カマド焚口	土師器坏	ロクロナデ、ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	推定口径12.6cm、推定底径5.2cm、器高5.1cm
第６図13	北西区５層	土師器甕	ロクロナデ	ロクロナデ	推定口径13cm、残存高7.8cm
第６図14	東区５層	須恵器坏	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	推定底径6.8cm、残存高2.3cm
第６図15	地点①Ｔ１、３～５層	高台付坏	ロクロナデ	ロクロナデ	推定底径6.6cm、残存高2.1cm

祢宜内遺跡　出土遺物観察表（2）

図版番号	出土位置	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　　考
第７図１、写真図版4-7	地点①Ｔ３、４層	須恵器長頸瓶	ロクロナデ	ロクロナデ	推定底径9cm、残存高6cm、９世紀、会津大戸産
第７図２	地点①Ｔ２、３層	土師器高坏	ナデ	ミガキ、黒色処理、荒いナデ	推定直径5cm、残存高7.2cm、７世紀後半～８世紀初め
第７図３	地点①Ｔ４、２～３層	土師器坏	ロクロナデ、回転糸切、コテあて調整	ロクロナデ	底径3.3cm、残存高0.9cm、10世紀代

祢宜内遺跡　出土遺物観察表（3）

図版番号	出土位置	種　別	特　　徴	法　　量
第８図１、写真図版4-8-1	SI01埋土１	土師器坏	墨書、外面はロクロナデ、底面は回転糸切、内面はヘラミガキ、黒色処理	
第８図２、写真図版4-8-2	SI02北区埋土２	土師器坏	墨書、底面は回転糸切、内面はヘラミガキ、黒色処理	
第８図３、写真図版4-8-3	SI04埋土６～８層	土師器甕？の屈曲部分か	細かい布目痕あり、ナデ、剥離面あり	長さ６cm以上、厚さ2.2cm
第８図４	SI03北区埋土１	石匙	両面に剥離あり、黒色頁岩	長さ5.9cm、幅2.6cm、厚さ0.9cm、重量13g
第８図５、写真図版4-8-5	SI01埋土２	礫石器	断面が歪な六角形を呈し、面取りしている。平滑になっている。	残存長6.4cm、幅6cm、厚さ5.3cm、重量302g

出土遺物観察表（1）

図版番号	出土位置、層位	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　　考
第20図１ａ～１ｅ	大畑遺跡地点③、Ｔ６、３層	縄文土器、深鉢	無節Ｌ→懸垂文	ミガキ	
第20図２	大畑遺跡地点③、Ｔ４、旧水路跡	須恵器甕	平行タタキ	青海波文	
第20図３	大畑遺跡地点③、Ｔ７、３層	須恵器盤？	ケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	８世紀前半以前
第20図４、写真図版5-2	田中遺跡、土器２	土師器甕	ハケメ→ミガキ、煤付着	ナデ	底径3.2cm、残存高13cm
第20図５、写真図版5-3	田中遺跡、土器１	土師器坏	ヨコナデ、ケズリ→ミガキ	ヨコナデ、ナデかミガキ	推定口径16.8cm、５世紀後半～末、須恵器模倣
第20図６、写真図版5-4	田中遺跡、土器３	土師器坏	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ、底面はマメツ	マメツ	推定口径15cm、底径9cm、器高3.7cm、８世紀末～９世紀初め
第20図７	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、深鉢	縄文ＬＲ、繊維土器	条痕文	早期
第20図８	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、深鉢	撚糸文Ｌの押圧	ナデ、ミガキ	後期
第20図９	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、深鉢	刻目、縄文ＬＲ→平行沈線文	ミガキ	後期
第20図10	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、深鉢	縄文ＬＲ、綾繰文	荒いミガキ	晩期
第20図11	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、壺	ミガキ	ミガキ	後期か晩期
第20図12	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、鉢	縄文ＬＲ→沈線文	ミガキ	晩期
第20図13	白石城跡地点①Ｔ１、１層	縄文土器、深鉢	口唇部に列点文、縄文ＬＲ→雲形文	ミガキ	晩期大洞Ｃ2式
第20図14	白石城跡地点①Ｔ１、１層	弥生土器、鉢	平行沈線文、煤付着	ナデ、煤付着	円田式
第20図15	白石城跡地点①Ｔ１、１層	中世陶器、鉢	ナデ	ナデ	
第20図16、写真図版6-4	蛭賀屋敷遺跡	円筒埴輪	縦のハケメ、突帯が剥落	荒いナデ	
第20図17、写真図版4-3	大畑遺跡地点②、SI01東区埋土	土師器高坏	ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	底径8.4cm、残存高4.4cm

出土遺物観察表（2）

図版番号	出土位置	種　別	外面の特徴等	内面の特徴等	備　　考
写真図版5-6-1	白石城跡地点①Ｔ１、１層	箆状石器	縁辺全体が剥離されている。	長さ5.6cm、幅3.8cm、厚さ1.45cm、重量36.5ｇ	
写真図版5-6-2	白石城跡地点①Ｔ１、１層	箆状石器	縁辺全体が剥離されている。折れあり。	長さ4.7cm、幅3.6cm、厚さ1.53cm、重量30.6ｇ	
写真図版5-7-1	白石城跡地点①Ｔ１、１層	土人形	堤焼と考えられるが、時期不明、天神の柄杓か？	残存長4.7cm	
写真図版5-7-2	白石城跡地点①Ｔ１、１層	土人形	堤焼と考えられるが、時期不明。	残存長３cm	
写真図版5-7-3	白石城跡地点①Ｔ１、１層	土人形	堤焼と考えられる。唐子ふうの袖、袖はしぼってある。	残存長6.4cm	
第21図２	大畑遺跡地点①、2007年２月28日、SD03南側埋土	擦痕のある石製品	楕円形を呈している。側面、裏面にも擦痕あり、軽い。	幅4.1cm、残存長3.7cm、厚さ1.2cm、重量11.7cm	
第21図６	大畑遺跡地点①、2007年３月９日、北西カクラン	鞴の羽口片	厚さ2.2cm		
第21図７	大畑遺跡地点①、2007年３月２日、SD01埋土	寛永通寶銅銭	直径2.5cm、孔径0.6cm、重量3.5g		
第21図３	大畑遺跡地点①、2007年３月７日、SI01埋土北西	土玉	長軸0.83cm、短軸0.77cm、孔径0.25cm、重量0.4g		
	大畑遺跡地点①、2007年３月１日、SD03埋土	鉄滓	10g		
	大畑遺跡地点①、2007年３月７日、SI01埋土北西	棒状鉄器3.7cm	3.1ｇ		

第２表　市内遺跡出土陶磁器一覧

番号	出土遺跡	出土位置、層位	種　別	特　　徴	備　　考
1	祢宜内遺跡	Ｔ３，２層	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	2008年５月12日地点①
2	祢宜内遺跡	表土	陶器	産地時期不明、灰釉	2008年５月12日地点①
3	蛭賀屋敷遺跡	表採	素焼き	接合面がある。	2008年７月９日、分布調査
4	白石城跡①	Ｔ１、１層	陶器	中世陶器、鉢	2008年10月１日確認調査
5	白石城跡①	Ｔ１、１層	陶器	堤焼、焙烙、19世紀前半	2008年10月１日確認調査
6	白石城跡①	Ｔ１、１層	陶器	産地時期不明、灰釉	2008年10月１日確認調査
7	白石城跡①	Ｔ１、１層	陶器	産地時期不明、土瓶、底面に炭化物付着	2008年10月１日確認調査
8	白石城跡①	Ｔ１、１層	陶器	産地時期不明、四角鉢、鉄釉と白濁釉	2008年10月１日確認調査
9	田中環濠遺跡	表採	磁器	中国青磁、蓮弁碗、発色悪い、13～14世紀	2008年10月20日工事立会、第21図１、写真図版5-8-1
10	田中環濠遺跡	表採	陶器	大堀相馬、折縁輪花皿、印花文、18世紀後半	2008年10月20日工事立会、写真図版5-8-3
11	田中環濠遺跡	表採	磁器	肥前、青磁染付碗、18世紀後半	2008年10月20日工事立会、写真図版5-8-2
12	田中環濠遺跡	表採	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	2008年10月20日工事立会
13	田中環濠遺跡	表採	陶器	小野相馬、外面は鉄釉、内面は白濁釉、鉢？18世紀代	2008年10月20日工事立会
14	田中環濠遺跡	表採	磁器	白磁、角型小皿、型押し、19世紀前半、産地不明	2008年10月20日工事立会
15	田中環濠遺跡	表採	陶器	産地時期不明、白濁釉	2008年10月20日工事立会
16	田中環濠遺跡	撹乱層	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	2008年10月20日工事立会
17	田中環濠遺跡	撹乱層	陶器	小野相馬、鉄釉鉢、18世紀代？	2008年10月20日工事立会
18	田中環濠遺跡	撹乱層	磁器	肥前染付、筒茶碗、18世紀後半？	2008年10月20日工事立会
19	田中環濠遺跡	撹乱層	瓦質土器	近世～近代	2008年10月21日工事立会
20	田中環濠遺跡	撹乱層	陶器	小野相馬、淡青色釉碗	2008年10月21日工事立会
21	大畑遺跡	Ｔ３、３層	陶器	肥前陶器、灰釉碗、17～18世紀	2008年11月４日確認調査
22	白石会所跡	１～３層	陶器	大堀相馬灰釉碗、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
23	白石会所跡	１～３層	陶器	大堀相馬灰釉碗、釉溜、18世紀	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-5
24	白石会所跡	１～３層	陶器	大堀相馬灰釉香炉？、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
25	白石会所跡	西側４層	陶器	大堀相馬灰釉碗、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
26	白石会所跡	西側４層	陶器	大堀相馬灰釉碗、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
27	白石会所跡	西側４層	陶器	大堀相馬掛分け釉碗、灰釉と鉄釉、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
28	白石会所跡	西側４層	陶器	大堀相馬鉄絵皿、19世紀前葉	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-1
29	白石会所跡	１～３層	陶器	小野相馬淡青色釉あめ釉流し、瓶類、18世紀代	2009年１月16日試掘調査
30	白石会所跡	中央４層	陶器	小野相馬灰碗、18世紀代	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-4
31	白石会所跡	西側４層	陶器	大堀相灰釉碗、江戸時代	2009年１月16日試掘調査
32	白石会所跡	中央４層	陶器	肥前灰釉碗、呉器手？17世紀後半以降	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-1
33	白石会所跡	西側４層	磁器	肥前染付小皿、型紙摺、17世紀末～18世紀中葉	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-2
34	白石会所跡	西側４層	磁器	肥前染付碗か鉢、17世紀～18世紀代	2009年１月16日試掘調査
35	白石会所跡	１～３層	磁器	波佐見？厚手の碗、染付？18世紀以降	2009年１月16日試掘調査

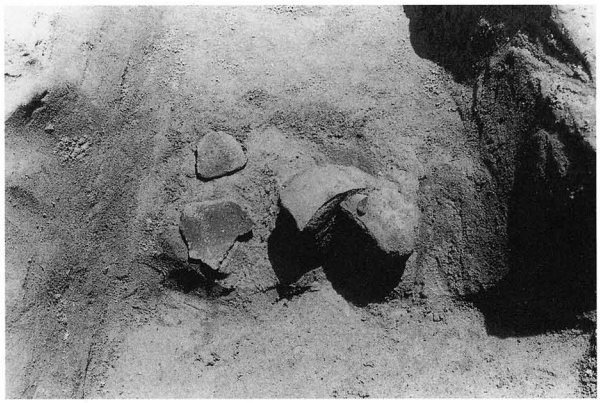
番号	出土遺跡	出土位置、層位	種　別	特　　徴	備　　考
36	白石会所跡	西側４層	磁器	肥前染付皿、江戸時代	2009年１月16日試掘調査
37	白石会所跡	１～３層	磁器	肥前染付碗、呉須、江戸時代	2009年１月16日試掘調査
38	白石会所跡	西側４層	陶器	唐津象嵌大鉢、17世紀後半代	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-3-2
39	白石会所跡	西側４層	陶器	透明釉、17世紀代	2009年１月16日試掘調査
40	白石会所跡	中央４層	陶器	末家？鉄釉切立甕、19世紀代、明治？	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-3-3
41	白石会所跡	西側４層	磁器	地方窯、染付、江戸時代～明治時代	2009年１月16日試掘調査
42	白石会所跡	１～３層	磁器	産地不明、染付皿、江戸時代	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-2-3
43	白石会所跡	西側４層	陶器	産地時期不明	2009年１月16日試掘調査
44	白石会所跡	西側４層	素焼き	素焼き、時期不明	2009年１月16日試掘調査
45	白石会所跡	中央４層	素焼き	瓦質土器、火鉢、江戸時代	2009年１月16日試掘調査、写真図版6-3-1
46	白石会所跡	１～３層	磁器	20世紀	2009年１月16日試掘調査
47	白石会所跡	東側４層	磁器	現代	2009年１月16日試掘調査
48	白石城跡⑤、西曲輪八幡社南斜面	表採	陶器	大堀相馬蓋、緑釉流し、白濁釉、19世紀中頃	2009年１月21日
49	白石城跡⑤、西曲輪八幡社南斜面	表採	陶器	皿？近代	2009年１月21日
50	白石城跡⑤、西曲輪八幡社南斜面	表採	磁器	染付小杯、時期不明	2009年１月21日
51	白石城跡⑤、西曲輪八幡社南斜面	表採	陶器	あめ釉鉢、時期不明	2009年１月21日
52	白石城跡⑤、西曲輪八幡社南斜面	表採	陶器	鉄釉瓶類、時期不明	2009年１月21日
53	白石城跡⑥、二の丸跡	表採	陶器	仏飯器、白濁釉、江戸時代	2009年１月30日、写真図版6-1-4
54	白石城跡⑥、二の丸跡	表採	陶器	京信楽系、色絵碗、18世紀	2009年１月30日、写真図版6-1-3
55	白石城跡⑥、二の丸跡	表採	陶器	大堀相馬白濁釉碗か皿、18世紀後半以降	2009年１月30日
56	白石城跡⑥、二の丸跡	表採	陶器	小野相馬淡青色釉折縁皿、18世紀代	2009年１月30日
57	白石城跡⑥、二の丸跡	表採	磁器	肥前、瓶類、江戸時代	2009年１月30日
58	白石城跡②	掘削土	磁器	瀬戸美濃白磁端反皿、寿字文型押し、幕末	2009年１月30日工事立会
59	白石城跡⑦、二の丸と芝生広場の間の階段沿い	表採	磁器	銅版転写、明治大正時代	2009年１月30日
60	白石城跡⑦、二の丸と芝生広場の間の階段沿い	表採	磁器	染付、近代	2009年１月30日
61	白石城跡⑧、芝生広場と神明社森の境界	表採	瓦	丸瓦の先端破片	2009年２月10日
62	白石城跡⑧、芝生広場と神明社森の境界	表採	陶器	大堀相馬白濁釉皿、18世紀後半～19世紀前半	2009年２月10日
63	白石城跡⑧、芝生広場と神明社森の境界	表採	陶器	灰釉、皿？、時期不明	2009年２月10日
64	田上遺跡	表採	磁器	肥前染付碗、近代	2009年２月13日確認調査
65	白石城跡④、白石高校内	１～２層	陶器	岸窯鉄釉摺鉢、17世紀中頃	2009年２月28日工事立会、写真図版6-1-1
66	白石城跡④、白石高校内	３層	磁器	波佐見、染付碗、くわらんかわん、18世紀代	2009年２月28日工事立会、写真図版6-1-2
67	大網遺跡	表採	陶器	肥前、灰釉、17世紀代	2009年３月13日確認調査
68	大網遺跡	表採	磁器	波佐見の碗、18世紀代、くわらんかわん	2009年３月13日確認調査
69	大網遺跡	表採	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	2009年３月13日確認調査
70	大網遺跡	表採	陶器	大堀相馬、白濁釉土瓶、19世紀前半	2009年３月13日確認調査
71	大網遺跡	表採	磁器	地方窯、染付、明治時代、19世紀後半	2009年３月13日確認調査
72	大網遺跡	表採	陶器	堤焼、鉢、江戸～明治	2009年３月13日確認調査
73	大畑遺跡地点④	Ｔ１、１～２層	磁器	肥前、蛇目釉剥皿、高台脇に砂付着、17世紀前半	2009年３月16日確認調査
74	菅生田遺跡	表土	陶器	肥前、緑釉がけ、17世紀後半？	2005年４月18日工事立会
75	小在家遺跡	表採	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	2005年11月15日表採
76	大畑遺跡	Ｔ１、２～４層	磁器	切込、染付端反碗、19世紀前半、推定口径10.8cm、底径4cm、器高6.1cm	2005年９月20日、発掘調査、地点②、第21図４、写真図版6-5
77	大畑遺跡	Ｔ２、２～３層	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀、高台内に墨書「前沢」ヵ、推定口径8.7cm、底径3.8cm、器高3.8cm	2005年９月20日、発掘調査、地点②、第21図５、写真図版6-6
78	大畑遺跡	Ｔ１、２～４層	陶器	大堀相馬、鉄絵土瓶、19世紀前半？	2005年９月20日、発掘調査、地点②
79	大畑遺跡	Ｔ１、２～４層	磁器	肥前染付、唐草文、瓶類、18世紀代	2005年９月20日、発掘調査、地点②
80	大畑遺跡	Ｔ１、２～４層	陶器	堤焼、焙烙、鉛釉、19世紀	2005年９月20日、発掘調査、地点②
81	大畑遺跡	Ｔ２、２～３層	磁器	近代	2005年９月20日、発掘調査、地点②
82	大畑遺跡	Ｔ２、２～３層	磁器	瀬戸美濃、染付端反皿、洋呉須、型押し文様、19世紀中～後半	2005年９月20日、発掘調査、地点②
83	大畑遺跡	遺構確認面	陶器	産地不明、鉢、外面は鉄釉、内面は白釉、近世～近代	2007年２月５日、発掘調査、地点①

1．祢宜内遺跡地点③発掘風景（南西から）

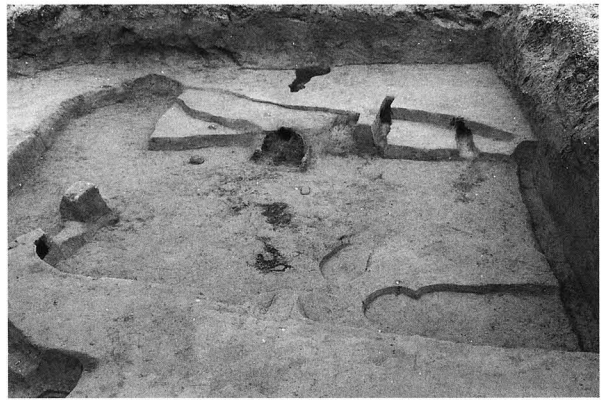
2．SI01竪穴住居跡完掘状況（西から）

3．SI02完掘状況（北から）

4．SI02南西ピット土器出土状況（東から）



5．SI02南西ピット土器出土状況（北から）

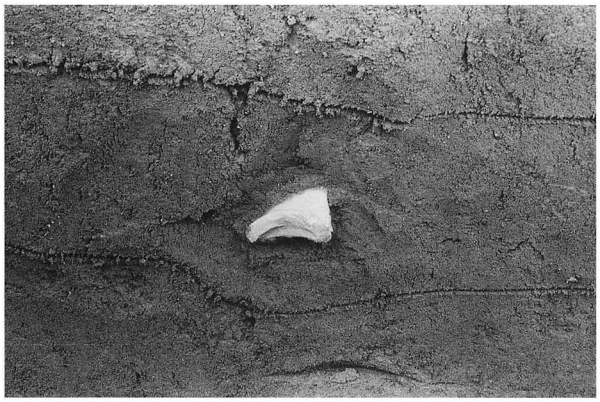


6．SI03完掘状況（西から）

7．SI04完掘状況（西から）

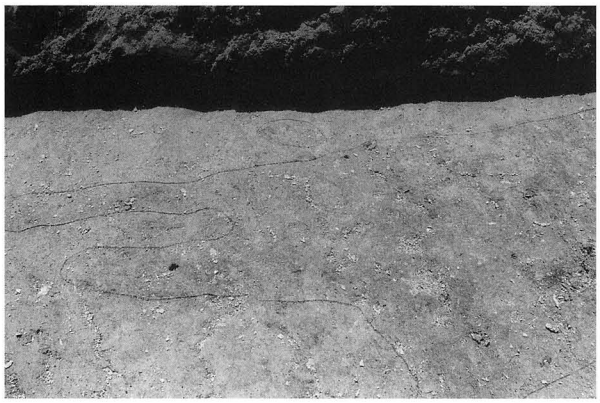
8．SI04大戸産長頸瓶出土状況（北から）

写真図版１　祢宜内遺跡



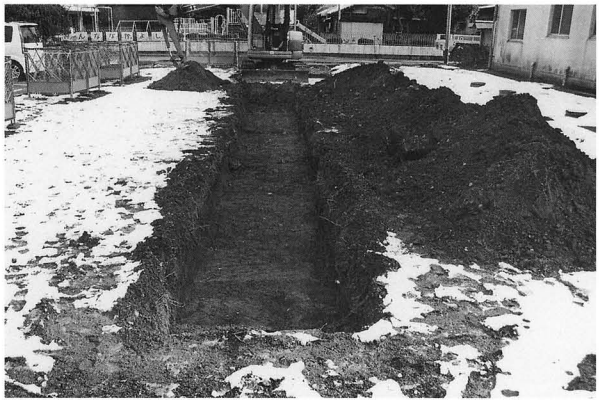
1．祢宜内遺跡地点① T3、4層、大戸産須恵器出土状況

2．大畑遺跡地点②調査風景（東から）



3．大畑遺跡地点②SI検出状況（北から）

4．白石城跡地点①調査風景（南から）



5．白石会所跡調査風景（西から）

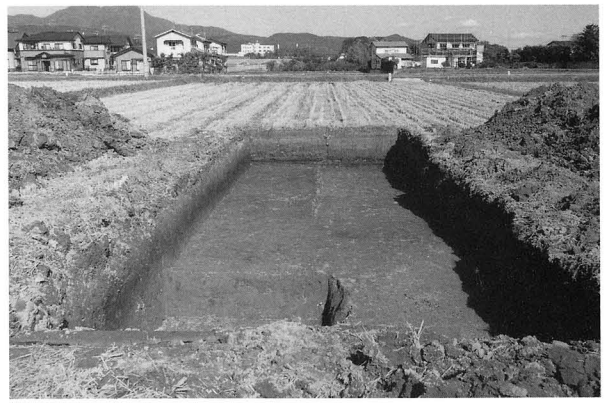
6．同左SD検出状況（西から）

7．同上SK検出状況（南から）

8．田上遺跡T3全景（西から）

写真図版２　祢宜内遺跡、大畑遺跡、白石会所跡、田上遺跡

1．大畑遺跡地点③調査風景（西から）



2．同左T6全景（南から）

3．同上平成９年S1トレンチ(北から）

4．同左S2トレンチ（南から）

5．大畑遺跡地点④調査風景（南東から）

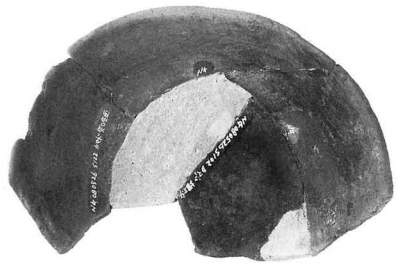
6．同左T1、SK01検出状況（北から）

7．同上T4におけるSI02検出状況（東から）

8．大網遺跡T1全景（西から）

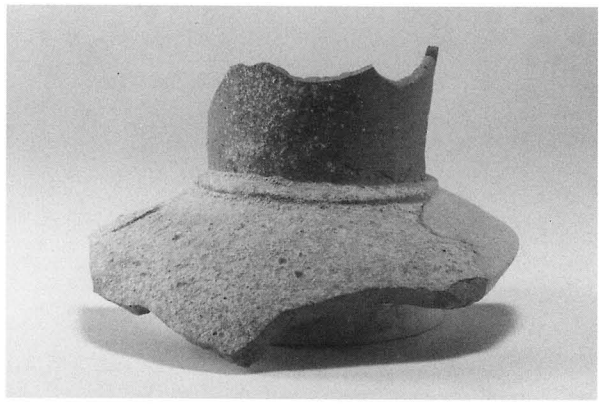
写真図版３　大畑遺跡、大網遺跡

1．祢宜内遺跡出土土器（第６図２）



2．祢宜内遺跡出土土器（上から）

3．大畑遺跡出土土器（第20図17）

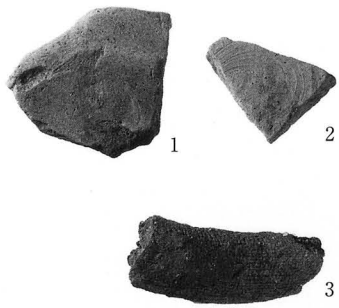


4．祢宜内遺跡出土土器（第６図10）

5．祢宜内遺跡出土土器（第６図４）

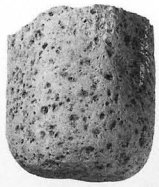
6．祢宜内遺跡出土土器（第６図２）

7．祢宜内遺跡出土土器（第７図１）



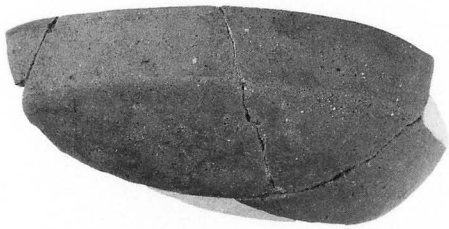
8．祢宜内遺跡出土土器（第８図１、２、３）

写真図版４　出土遺物（1）



1．祢宜内遺跡出土石器（第８図５）

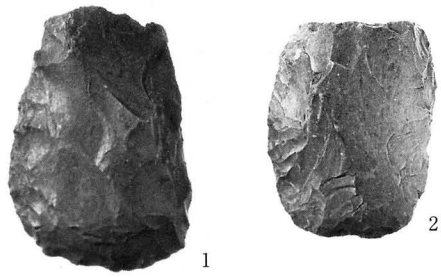
2．田中遺跡出土土器（第20図４）



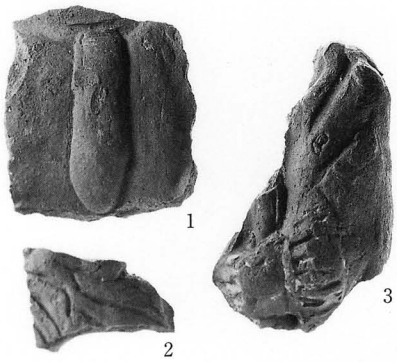
3．田中遺跡出土土器（第20図５）

4．田中遺跡出土土器（第20図６）

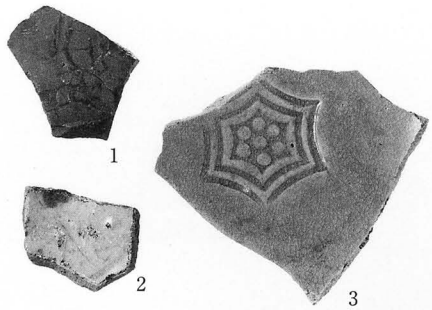
5．大畑遺跡地点③出土土器（第20図1a～e）



6．白石城跡地点①出土石器

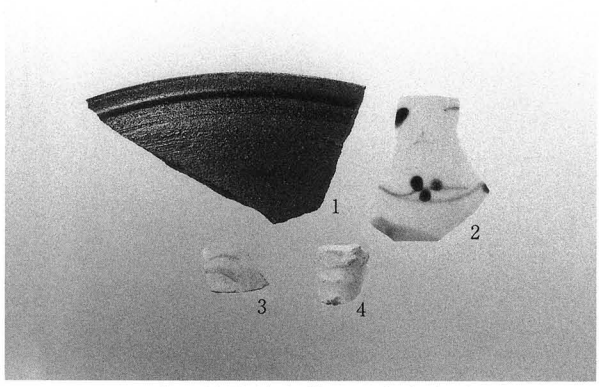


7．白石城跡地点①出土土人形

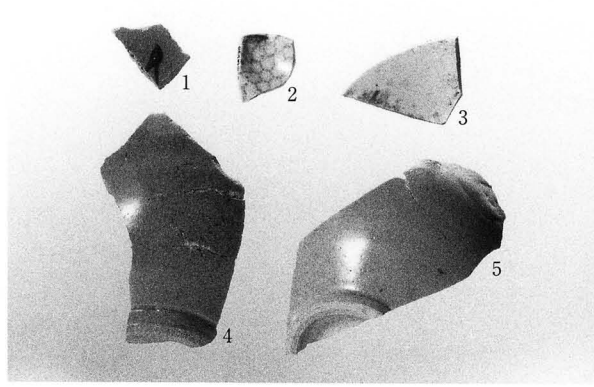


8．田中環濠遺跡出土陶磁器（１は第21図１）

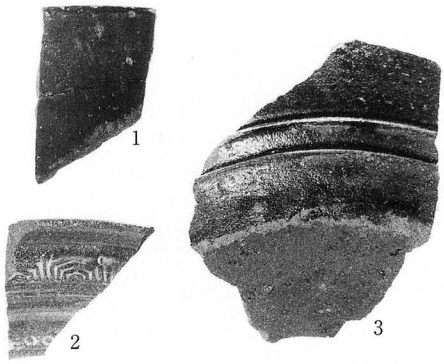
写真図版５　出土遺物（2）



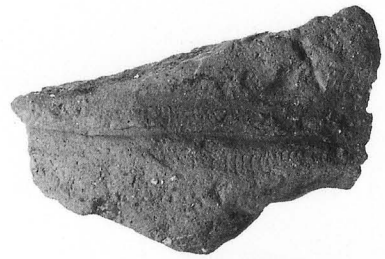
1．白石城跡地点④ほか出土陶磁器



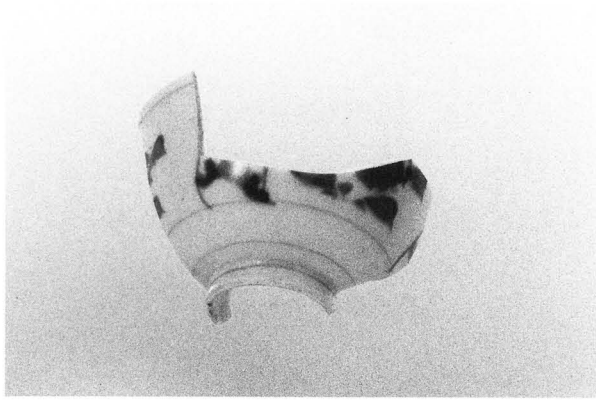
2．白石会所跡出土陶磁器



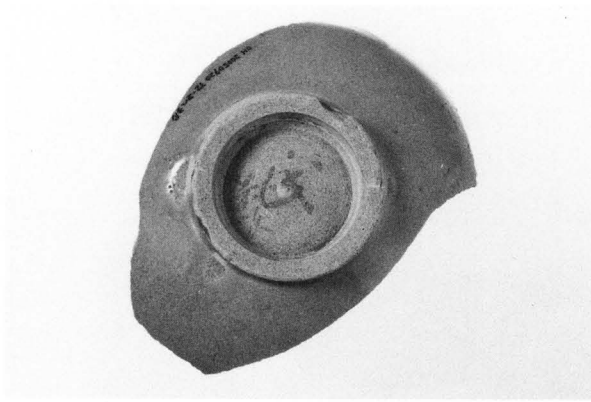
3．白石会所跡出土陶器類



4．蛭賀屋敷遺跡出土埴輪（第20図16）



5．大畑遺跡出土磁器（第21図４）



6．大畑遺跡出土陶器（第21図５）

写真図版６　出土遺物（3）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょうよん
書名	市内遺跡発掘調査報告書４
副書名	
巻次	
シリーズ名	白石市文化財調査報告書
シリーズ番号	第33集
編著者名	日下和寿、櫻井和人
編集機関	白石市教育委員会
所在地	〒989-0206　宮城県白石市字寺屋敷前25番地6　TEL：0224(22)1343
発行年月日	西暦2009年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	発掘調査面積 ㎡	調査原因
祢宜内遺跡（ねぎうちいせき）	白石市字祢宜内99-2ほか	04206	02430	38°00′40″	140°37′37″	20080512	28.00	私道拡幅
	白石市字祢宜内99-7ほか	04206	02430	38°00′39″	140°37′36″	20080515	6.58	宅地拡張
	白石市字祢宜内99-3ほか	04206	02430	38°00′39″	140°37′37″	20080515～20080605	63.75	個人住宅建設
大畑遺跡（おおはたいせき）	白石市字不澄ヶ池71-3	04206	02262	38°00′29″	140°37′32″	20080603	10.20	個人住宅建設
	白石市字大畑二番39-1	04206	02262	38°00′31″	140°37′36″	20080610	22.00	個人住宅建設
	白石市字東大畑96-1ほか	04206	02262	38°00′30″	140°37′51″	20081104～20081106	118.00	店舗建設
	白石市字大畑一番146	04206	02262	38°00′26″	140°37′54″	20090316	32.51	駐車場建設
田中遺跡（たなかいせき）、田中環濠遺跡（たなかかんごういせき）	白石市大鷹沢三沢字田中ほか	04206	02135、02285	37°59′15″	140°37′39″	20080820～20081203	898.00	下水管埋設
白石城跡（しろいしじょうあと）	白石市益岡町125-2	04206	02197	38°00′12″	140°37′2″	20081001	10.95	個人住宅建設
白石会所跡（しろいしかいしょあと）	白石市亘理町37-1	04206	02445	38°00′30″	140°37′17″	20090116	19.50	試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
祢宜内遺跡	散布地	平安	竪穴住居跡	溝	土師器、須恵器	墨書土器	会津大戸産須恵器が出土した。
大畑遺跡	散布地・官衙	古代	竪穴住居跡	溝	土師器、須恵器	縄文土器	竪穴住居跡の広がりが確認された。
田中遺跡、田中環濠遺跡	散布地・城館	古墳、平安、中世	竪穴住居跡	土坑、溝	土師器、須恵器	中近陶磁器	古墳時代中期の集落の一部を確認した。13～14世紀の青磁が出土した。
白石城跡	城館跡	近世	なし		近世陶磁器		近世陶磁器が各所で出土した。
白石会所跡	役所跡	近世	溝	土坑	近世陶磁器	瓦質土器	近世の遺構が確認された。

要約	祢宜内遺跡では、市内で初めて、会津大戸産須恵器が確認された。
	大畑遺跡では、遺跡範囲の南東にも竪穴住居跡が多く分布することが確認された。
	田中遺跡、田中環濠遺跡では、遺跡の年代の手懸かりとなる中世陶器が出土した。
	白石城跡では各所に近世陶磁器が分布することが判明した。
	白石会所跡では文献で推定されていた会所跡に関連する遺構遺物が確認された。

白石市文化財調査報告書　第33集

市内遺跡発掘調査報告書４

平成21年７月27日印刷
平成21年７月31日発行

編集・発行　白石市教育委員会
〒989-0206　宮城県白石市字寺屋敷前25番６
電話：0224（22）1343、0224（26）2453

印　　刷　株式会社東北プリント
〒980-0822　仙台市青葉区立町24-24
電話：022（263）1166